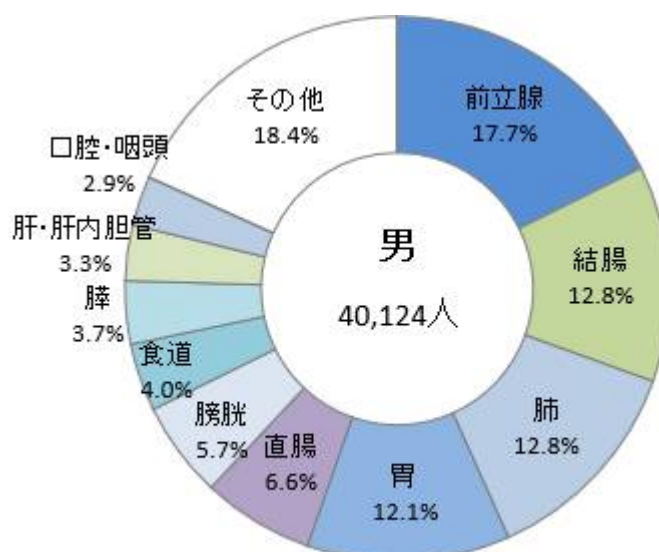


II. 神奈川のがん（2022年）

1. がんのり患

(1) 2022年のがんのり患

順位	男	り患数
1	前立腺	7,092
2	結腸	5,155
3	肺	5,128
4	胃	4,835
5	直腸	2,663
6	膀胱	2,293
7	食道	1,617
8	膵	1,503
9	肝・肝内胆管	1,324
10	口腔・咽頭	1,181
11	その他	7,333
	合計	40,124



順位	女	り患数
1	乳房	8,453
2	結腸	4,082
3	子宮	3,416
4	肺	2,779
5	胃	2,333
6	膵	1,558
7	直腸	1,542
8	卵巣	991
9	皮膚	953
10	悪性リンパ腫	873
11	その他	5,697
	合計	32,677

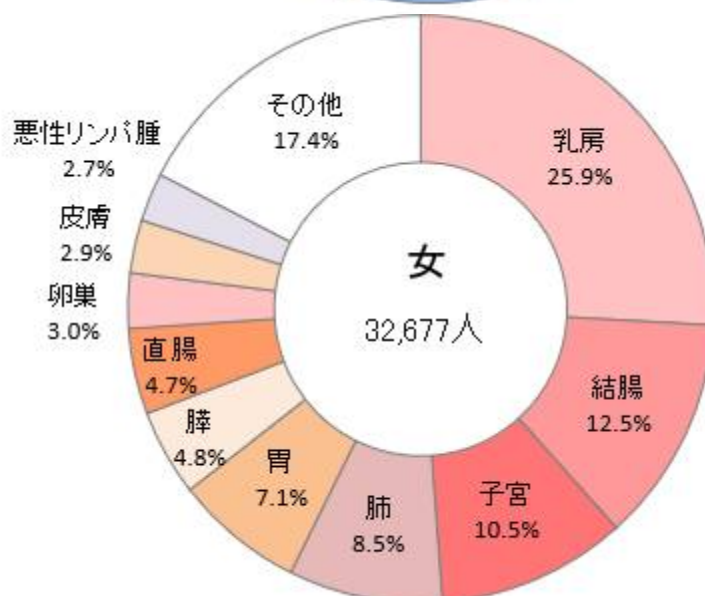


図4 悪性新生物登録部位別り患の比較 - 2022年 -

令和6年度の神奈川県悪性新生物登録事業では、概要の4. 事業実施状況で報告している登録票と令和5年の死亡票の処理を行ったほか、2022年の悪性新生物（以下「がん」と称す）のり患、死亡状況についての集計・解析を行った。集計対象年が2年前の「2022年」であるのは、概要の7. り患算定方法の項で説明した理由に依っている。

2022年の本県のがんのり患者は、72,801人（男40,124人、女32,677人）であった。そのうち県下の医療機関からの届出によって登録されたのは、69,562人（95.6%）、死亡票により確認されたものが3,239人（4.4%）であった。り患数は2021年と比較すると259人の減少（男97人減、女162人減）であった。2020年のり患割合と比較すると、男では前立腺、膀胱の割合が、女では膵、胃の割合が増加し、男の結腸、胃、肺、女の結腸、子宮は減少している。

人口10万人あたりの粗り患率は男898.8、女717.7、2021年は男899.5、女721.6であり、男女とも減少している。年齢調整り患率（標準人口は世界人口一付表31-を用いた）は男304.8、女298.8、2021年は男314.0、女306.4であり、男女ともに減少している。主要部位別のり患数、粗

り患率、年齢調整り患率は（付表 1、2、3）に掲載した。

(2) 主要部位別り患割合

がんは、わが国において昭和 56 年より死因の第一位であり、令和 5 年には年間約 38 万人が亡くなり、生涯で約 2 人に 1 人ががんにかかると推計されている（令和 7 年版厚生労働白書より）。

がんのり患について経年的にがんの死亡やり患を部位別に細かく観察すると、性別、年齢別に少しずつ変化していることがわかる。

表 5 は 2021-2022 年（2 年間）と 10 年前の 2011-2012 年（2 年間）の主要部位別、性別のり患数、り患割合、性比を比較したものである。2021-2022 年の男のり患数 80,350 人、女のり患数は 65,515 人であり、10 年前の 2011-2012 年の男のり患数は 64,963 人、女のり患数は 46,924 人で、男女ともにり患数の増加がみられる。

図 5 より、部位別の構成割合をみると、男は胃が 16.2%から 12.2%へ肝・肝内胆管が 5.1%から 3.3%へ、女は胃が 9.4%から 7.0%へと大きく減少している。また、肝・肝内胆管も男同様に 3.5%から 1.8%へと減少している。胃、肝・肝内胆管の減少とは逆に、男では前立腺や結腸の割合が大きく増加した。特に前立腺は 14.5%が 17.1%となり、り患順位では 2 位が 1 位となった。女では、乳房、子宮、皮膚の割合が増加している。

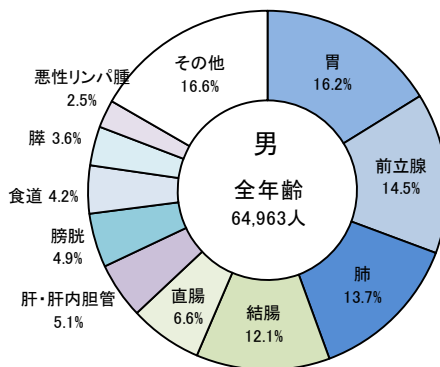
また、女を 1 とした場合の男の比（性比）をみると、ほとんどの部位で男が高く、喉頭、食道でその差も大きくなっている。

表 5 主要部位・性別・り患数およびり患の割合と性比

部位	ICD-10	2011年-2012年					2021年-2022年				
		男 (M)		女 (F)		性比 M/F	男 (M)		女 (F)		性比 M/F
		数	%	数	%		数	%	数	%	
全部位	C00-C96,D06	64,963	100.0	46,924	100.0	1.4	80,350	100.0	65,515	100.0	1.2
口腔・咽頭	C00-C14	1,597	2.5	596	1.3	2.7	2,322	2.9	919	1.4	2.5
食道	C15	2,795	4.3	542	1.2	5.2	3,231	4.0	797	1.2	4.1
胃	C16	10,498	16.2	4,407	9.4	2.4	9,814	12.2	4,614	7.0	2.1
結腸	C18	7,837	12.1	6,063	12.9	1.3	10,809	13.5	8,302	12.7	1.3
直腸	C19-C20	4,271	6.6	2,209	4.7	1.9	5,302	6.6	3,124	4.8	1.7
肝・肝内胆管	C22	3,304	5.1	1,645	3.5	2.0	2,677	3.3	1,163	1.8	2.3
胆のう・胆管	C23-C24	1,398	2.2	1,161	2.5	1.2	1,500	1.9	1,135	1.7	1.3
膵	C25	2,294	3.5	1,940	4.1	1.2	3,003	3.7	2,944	4.5	1.0
喉頭	C32	551	0.8	45	0.1	12.2	562	0.7	52	0.1	10.8
肺	C33-C34	8,893	13.7	3,971	8.5	2.2	10,371	12.9	5,545	8.5	1.9
骨	C40-C41	59	0.1	53	0.1	1.1	61	0.1	44	0.1	1.4
皮膚	C43-C44	1,069	1.6	1,057	2.3	1.0	2,087	2.6	1,898	2.9	1.1
前立腺	C61	9,414	14.5	.	.	.	13,704	17.1	.	.	.
乳房	C50	59	0.1	10,818	23.1	.	120	0.1	16,929	25.8	.
子宮	C53-C55,D06	.	.	4,326	9.2	.	.	.	6,960	10.6	.
卵巣	C56	.	.	1,467	3.1	.	.	.	1,970	3.0	.
膀胱	C67	3,153	4.9	899	1.9	3.5	4,501	5.6	1,300	2.0	3.5
白血病	C91-C95	923	1.4	568	1.2	1.6	1,006	1.3	725	1.1	1.4

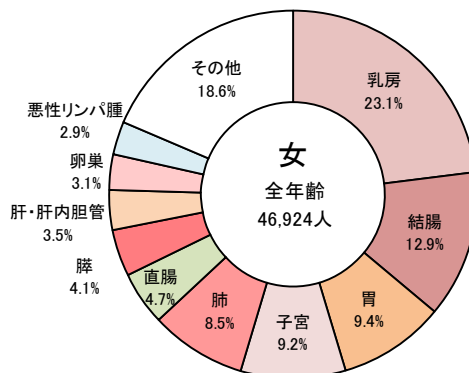
2011-2012年

順位	男	り患数
1	胃	10,498
2	前立腺	9,414
3	肺	8,893
4	結腸	7,837
5	直腸	4,271
6	肝・肝内胆管	3,304
7	膀胱	3,153
8	食道	2,795
9	膵	2,294
10	悪性リンパ腫	1,649
11	その他	10,855
	合計	64,963



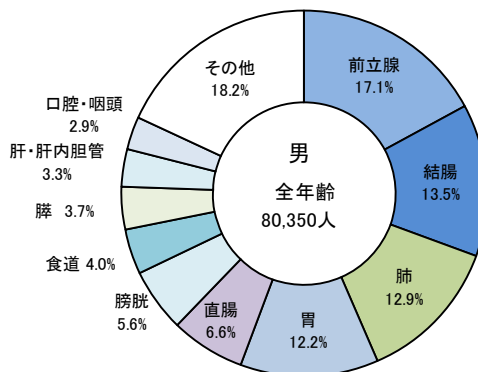
2011-2012年

順位	女	り患数
1	乳房	10,818
2	結腸	6,063
3	胃	4,407
4	子宮	4,326
5	肺	3,971
6	直腸	2,209
7	膵	1,940
8	肝・肝内胆管	1,645
9	卵巣	1,467
10	悪性リンパ腫	1,356
11	その他	8,722
	合計	46,924



2021-2022年

順位	男	り患数
1	前立腺	13,704
2	結腸	10,809
3	肺	10,371
4	胃	9,814
5	直腸	5,302
6	膀胱	4,501
7	食道	3,231
8	膵	3,003
9	肝・肝内胆管	2,677
10	口腔・咽頭	2,322
11	その他	14,616
	合計	80,350



2021-2022年

順位	女	り患数
1	乳房	16,929
2	結腸	8,302
3	子宮	6,960
4	肺	5,545
5	胃	4,614
6	直腸	3,124
7	膵	2,944
8	卵巣	1,970
9	皮膚	1,898
10	悪性リンパ腫	1,752
11	その他	11,477
	合計	65,515

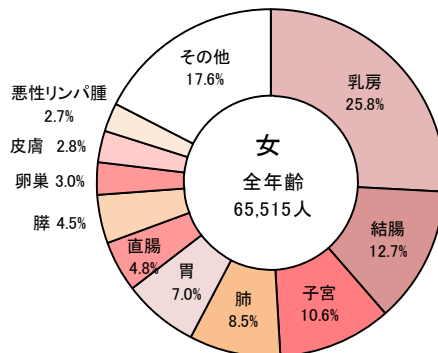


図5 がんの部位別り患割合の比較

2011-2012年の部位別り患数を1とすると、10年後の2021-2022年は、男は皮膚が2.0倍、口腔・咽頭が1.5倍に増えている。女では皮膚が1.8倍、子宮および乳房が1.6倍に増えている。

(3) 年齢階級別り患割合

がんの部位別り患割合は性別により異なるように、年齢階級にも違いが観察されている。図6-1、6-2は2021-2022年の2年間の合計り患数を0-14歳、15-39歳、40-64歳、65歳以上の4年齢階級に分け、男女別に主要部位別り患割合を図示したものである。

0-14歳の2021-2022年のり患数は男129人、女112人である。主要部位をみると、男女ともに白血病、脳などが高い割合を占めている。また、白血病以外は成人のがんではあまりみられない部位構成をしている。

15-39歳をみると、男のり患数は815人、女のり患数は3,048人で女が2,233人多い。り患数の多い部位をみると、男では、精巣、結腸、白血病、直腸の順で、女では、子宮、乳房、卵巣、甲状腺の順で高い割合を占めている。り患数は女の方が多く、性別によりり患の部位構成が異なっている。

40-64歳では、男のり患数は14,312人、女のり患数は20,681人である。男は、結腸、前立腺、直腸、肺、胃の順に、女は乳房、子宮、結腸、卵巣、直腸の順にり患割合が高い。また40-64歳の男のがんり患数は、男の総り患数の17.8%を、40-64歳の女のがんり患数は、女の総り患数の31.6%を占めている。

65歳以上の男のり患数は65,094人、女41,674人である。男は前立腺が、女は乳房のり患割合が最も高く、次いで男は肺、胃、結腸の順に、女は結腸、肺、胃と続く。65歳以上の男のがんり患数は、男の総り患数の81.0%を、65歳以上の女のがんり患数は、女の総り患数の63.6%を占めている。

男では、40-64歳で結腸、前立腺、直腸のり患数が多く、65歳以上では前立腺、肺、胃のり患数が多くなっている。女では、40-64歳で乳房、子宮、結腸のり患数が多く、65歳以上では乳房、結腸、肺のり患数が多くなっている。また、男の65歳以上に前立腺がんが増えてきている。

40歳以上の男のり患数は、男の総り患数の98.8%を、40歳以上の女のり患数は、女の総り患数の95.2%を占めている。

がんり患の部位別り患数やり患割合は、性別、年齢階級別に異なり、さらに地域による違いや経年の変化も観察されている（付表2、8、19、21参照）。

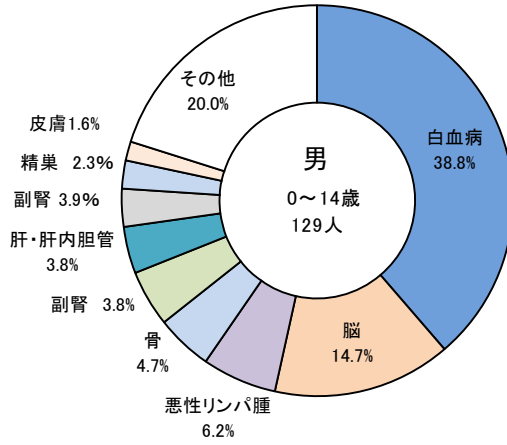
(4) 主要部位の年齢階級別り患割合

2021-2022年のり患数より、部位別、性別、5歳毎の年齢階級別のり患割合を図7-1、7-2、7-3に示した。ほとんどのがんは40歳頃より増加し、65-75歳頃が最も高い割合を占めていることがわかる。乳房では、最も高い割合を占める年齢階級は50-54歳および70-74歳である。女性では、口腔・咽頭、胃、結腸、肝・肝内胆管、膵、皮膚、膀胱は85歳以上が最も高い割合を占めている。

(図表は30頁より掲載)

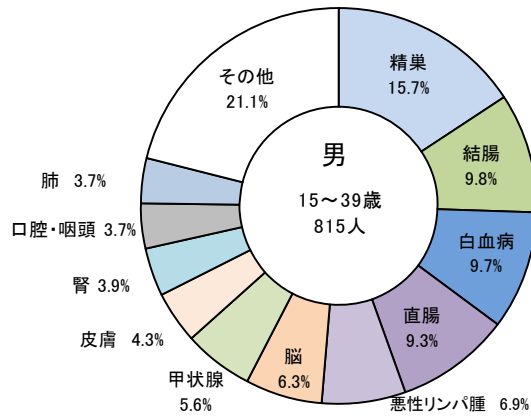
0～14歳

順位	男	り患数
1	白血病	50
2	脳	19
3	悪性リンパ腫	8
4	骨	6
4	腎	6
6	肝・肝内胆管	5
7	副腎	4
8	精巣	3
9	皮膚	2
10	その他	26
	合計	129



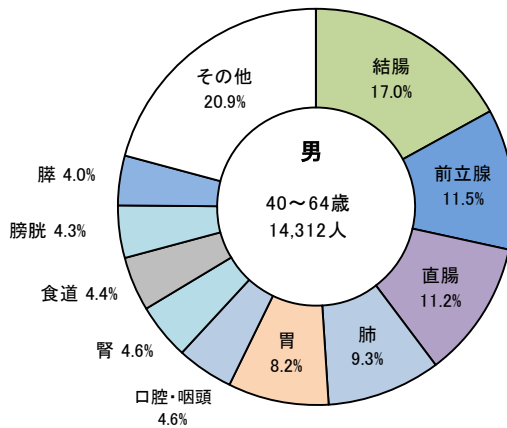
15～39歳

順位	男	り患数
1	精巣	128
2	結腸	80
3	白血病	79
4	直腸	76
5	悪性リンパ腫	56
6	脳	51
7	甲状腺	46
8	皮膚	35
9	腎	32
10	口腔・咽頭	30
10	肺	30
12	その他	172
	合計	815



40～64歳

順位	男	り患数
1	結腸	2,435
2	前立腺	1,644
3	直腸	1,603
4	肺	1,333
5	胃	1,174
6	口腔・咽頭	660
7	腎	659
8	食道	627
9	膀胱	616
10	膵	578
11	その他	2,983
	合計	14,312



65歳以上

順位	男	り患数
1	前立腺	12,059
2	肺	9,008
3	胃	8,616
4	結腸	8,293
5	膀胱	3,868
6	直腸	3,623
7	食道	2,603
8	膵	2,411
9	肝・肝内胆管	2,237
10	皮膚	1,739
11	その他	10,637
	合計	65,094

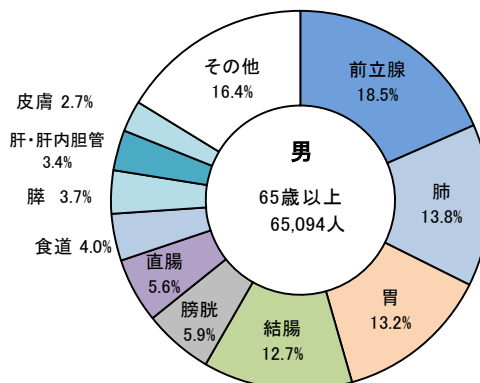
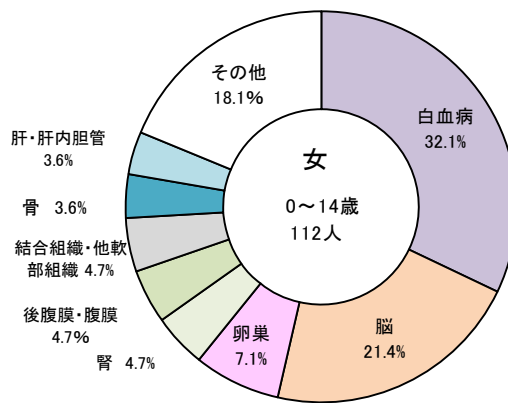
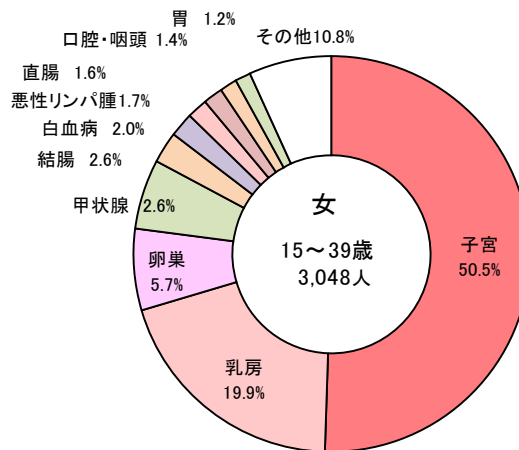


図6-1 り患の年齢階級別、部位別比較

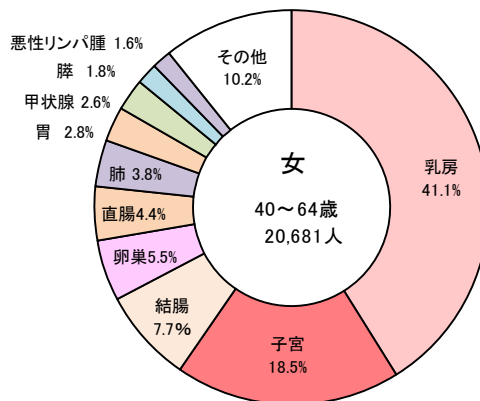
0～14歳		
順位	女	り患数
1	白血病	36
2	脳	24
3	卵巣	8
4	腎	5
4	後腹膜・腹膜	5
4	結合組織・他軟部組織	5
7	骨	4
8	肝・肝内胆管	4
9	その他	21
	合計	112



15～39歳		
順位	女	り患数
1	子宮	1,541
2	乳房	606
3	卵巣	203
4	甲状腺	173
5	結腸	78
6	白血病	60
6	悪性リンパ腫	52
8	直腸	48
9	口腔・咽頭	43
10	胃	38
11	その他	206
	合計	3,048



40～64歳		
順位	女	り患数
1	乳房	8,501
2	子宮	3,828
3	結腸	1,590
4	卵巣	1,031
5	直腸	914
6	肺	796
7	胃	587
8	甲状腺	531
9	膵	367
10	悪性リンパ腫	323
11	その他	2,213
	合計	20,681



65歳以上		
順位	女	り患数
1	乳房	7,822
2	結腸	6,633
3	肺	4,727
4	胃	3,988
5	膵	2,559
6	直腸	2,162
7	皮膚	1,609
8	子宮	1,591
9	悪性リンパ腫	1,374
10	膀胱	1,129
11	その他	8,080
	合計	41,674

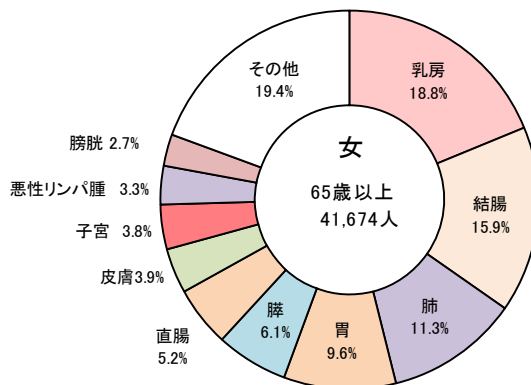


図6-2 り患の年齢階級別、部位別比較
—女— 2021-2022年

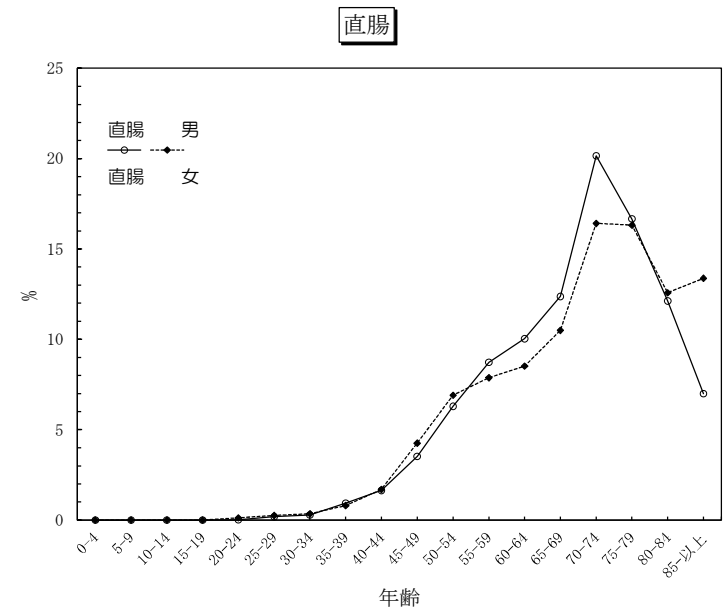
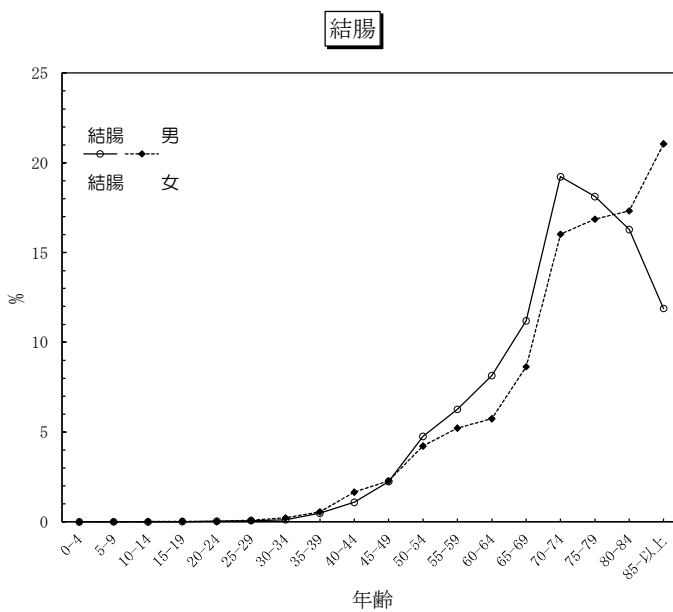
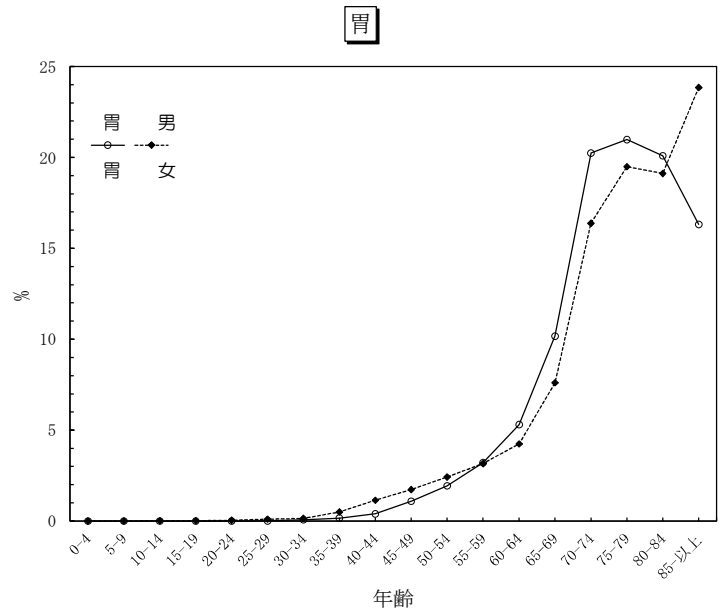
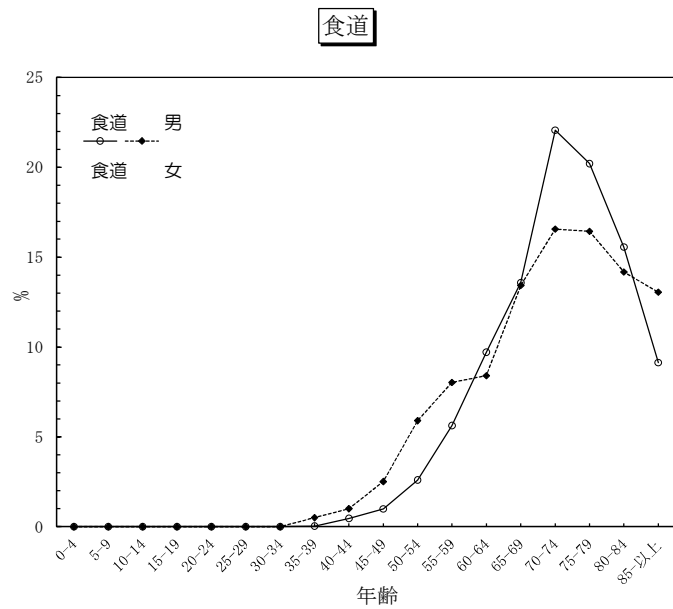
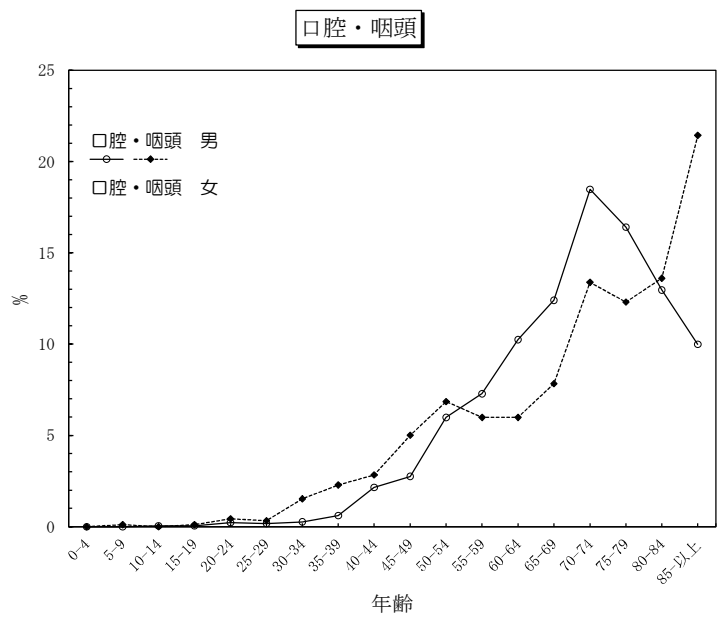
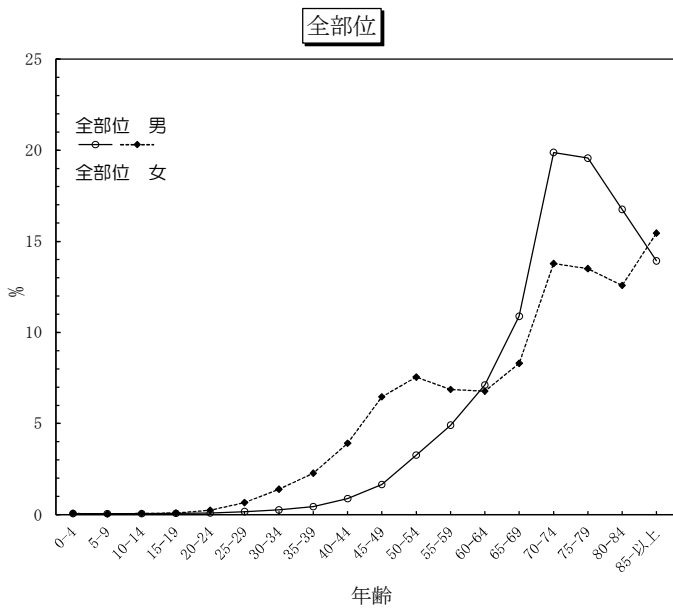
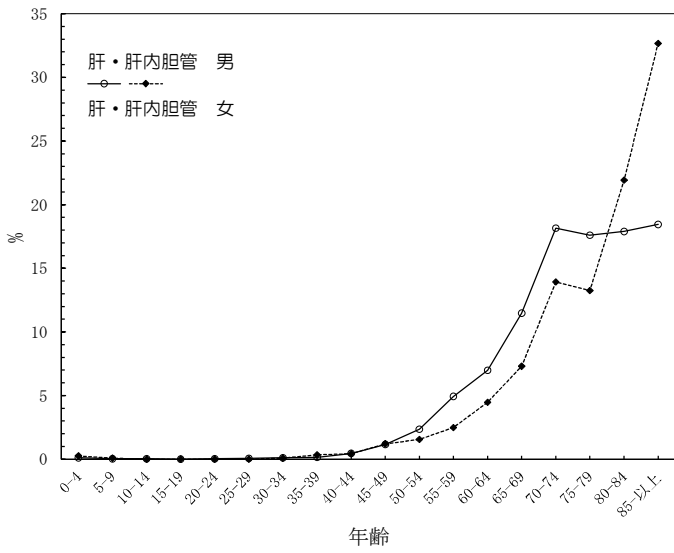
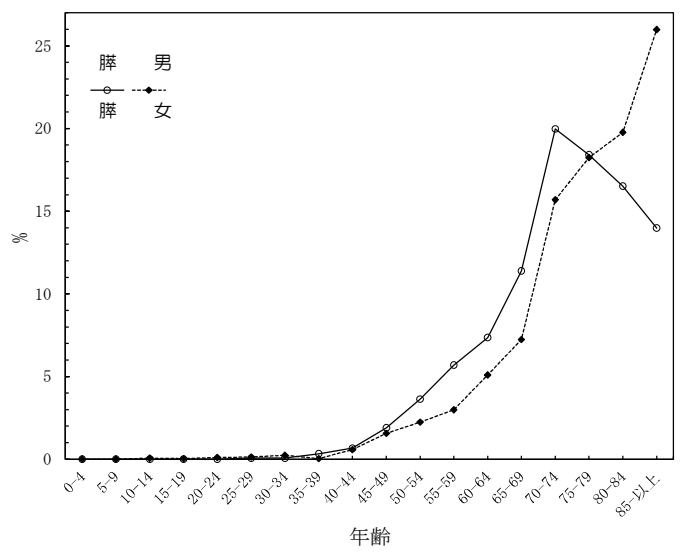


図7-1 部位別、年齢階級別り患割合 (%) (2021-2022年)

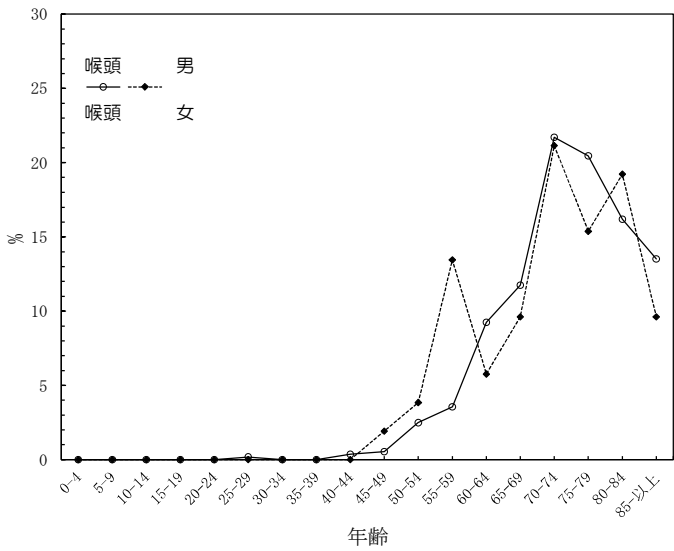
肝・肝内胆管



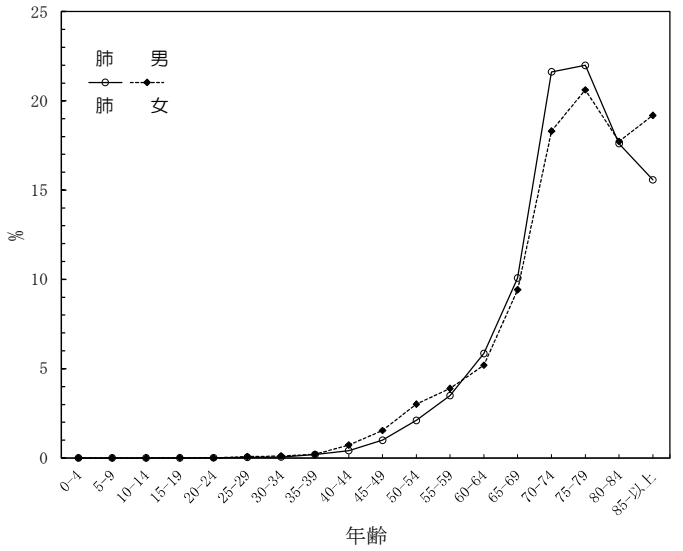
膝



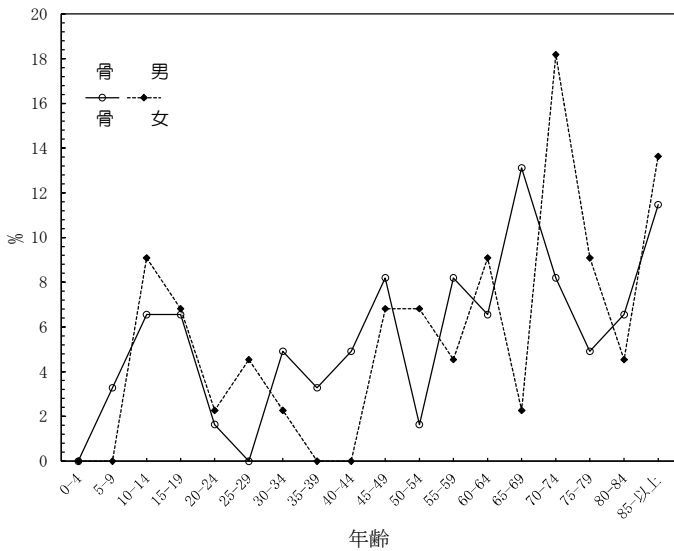
喉頭



肺



骨



皮膚

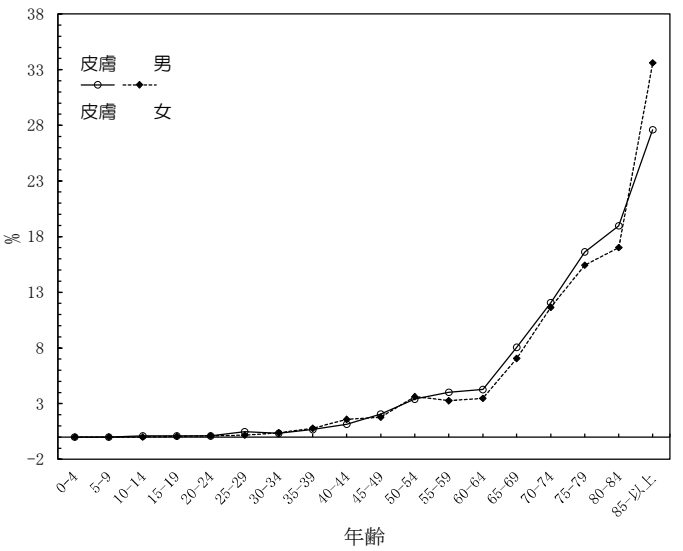
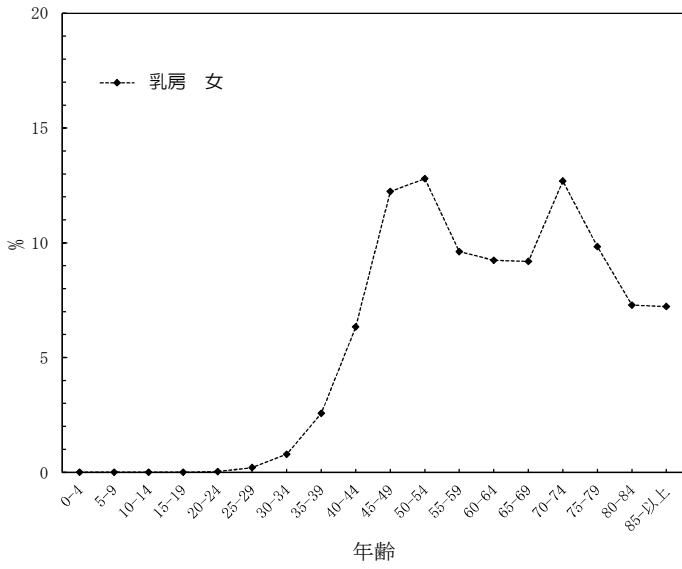
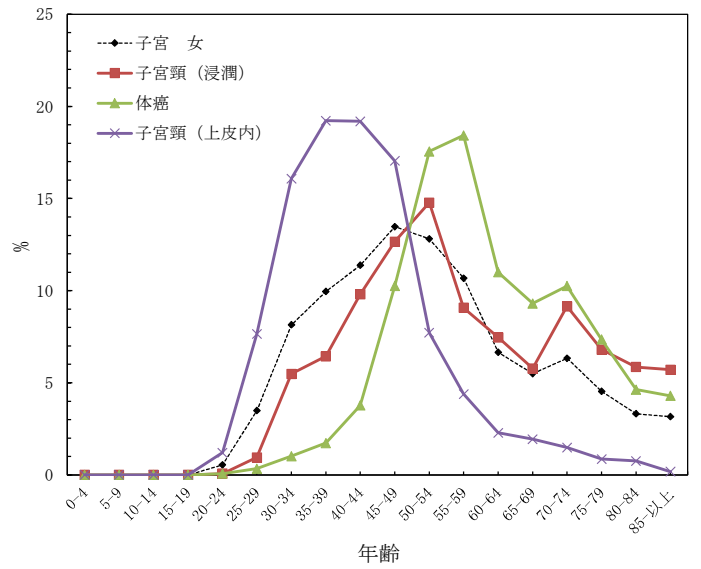


図7-2 部位別、年齢階級別り患割合 (%) (2021-2022年)

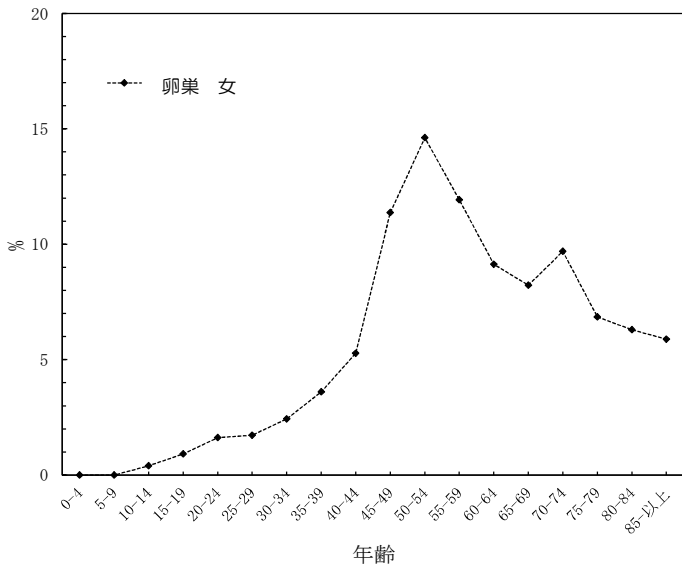
乳房



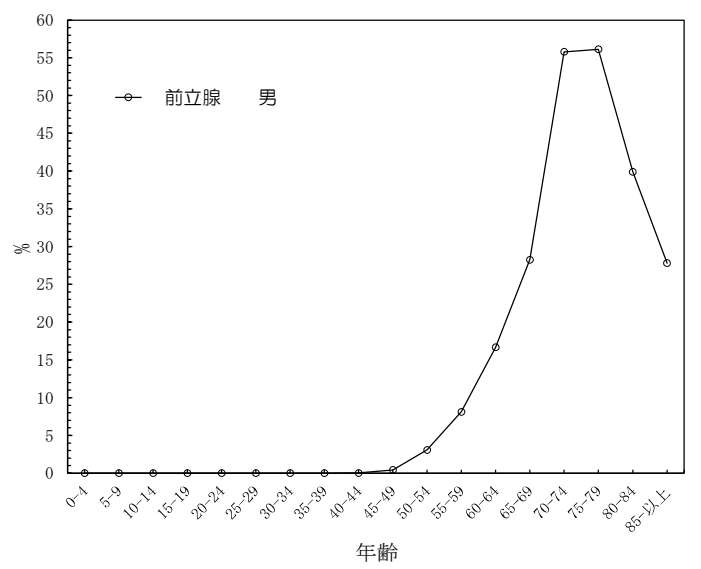
子宮



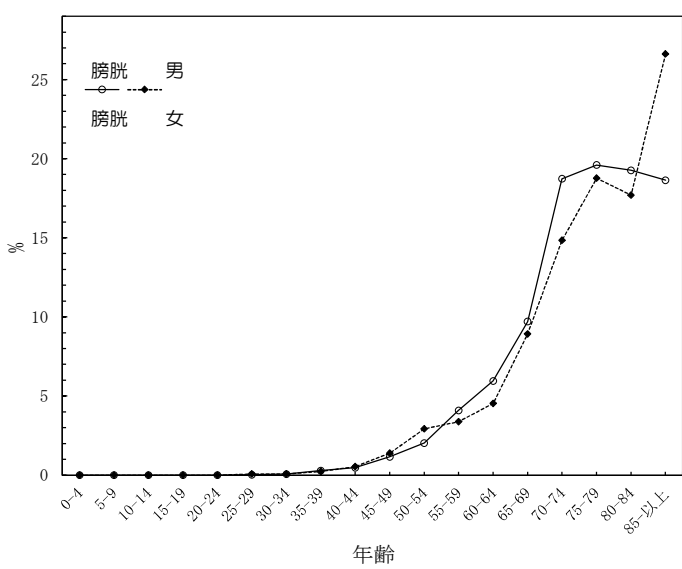
卵巢



前立腺



膀胱



白血病

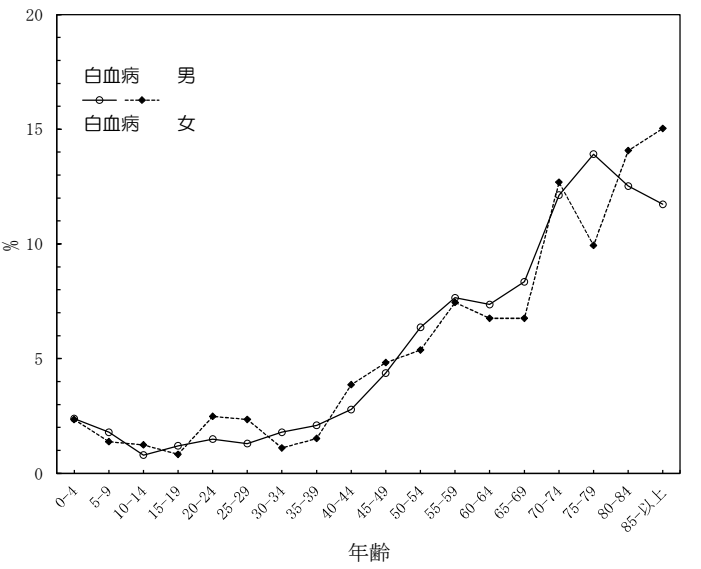


図 7-3 部位別、年齢階級別り患割合 (%) (2021-2022年)

2. 地域とがん

(1) 地域区分

神奈川県を11の二次保健医療圏ブロックに分け、がんの部位別のり患率を観察した。地域区分は図8に示し、それぞれに含まれる市区町村は下表にのせた。なお、平成30年度第7次保健医療計画より、横浜市北部、横浜市西部、横浜市南部を横浜市に統合、9二次保健医療圏域となった。本報告書では、データの継続性を鑑み、引き続き11二次保健医療圏域を採用している。

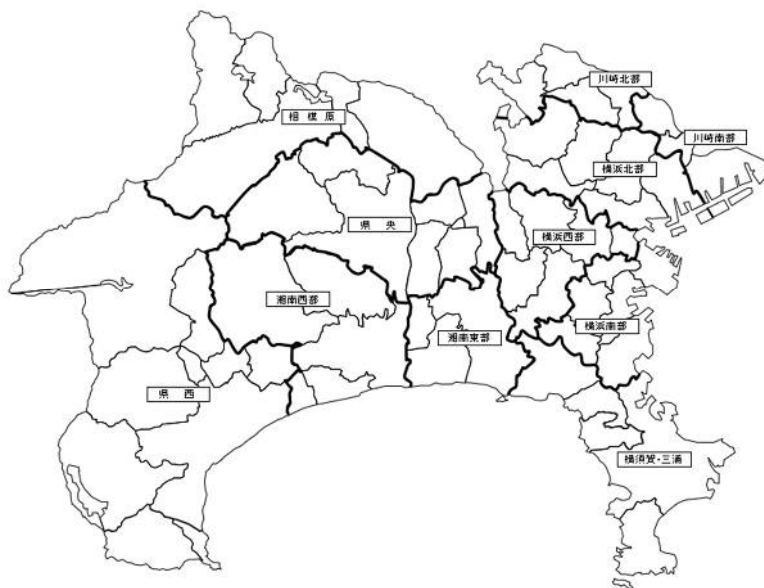
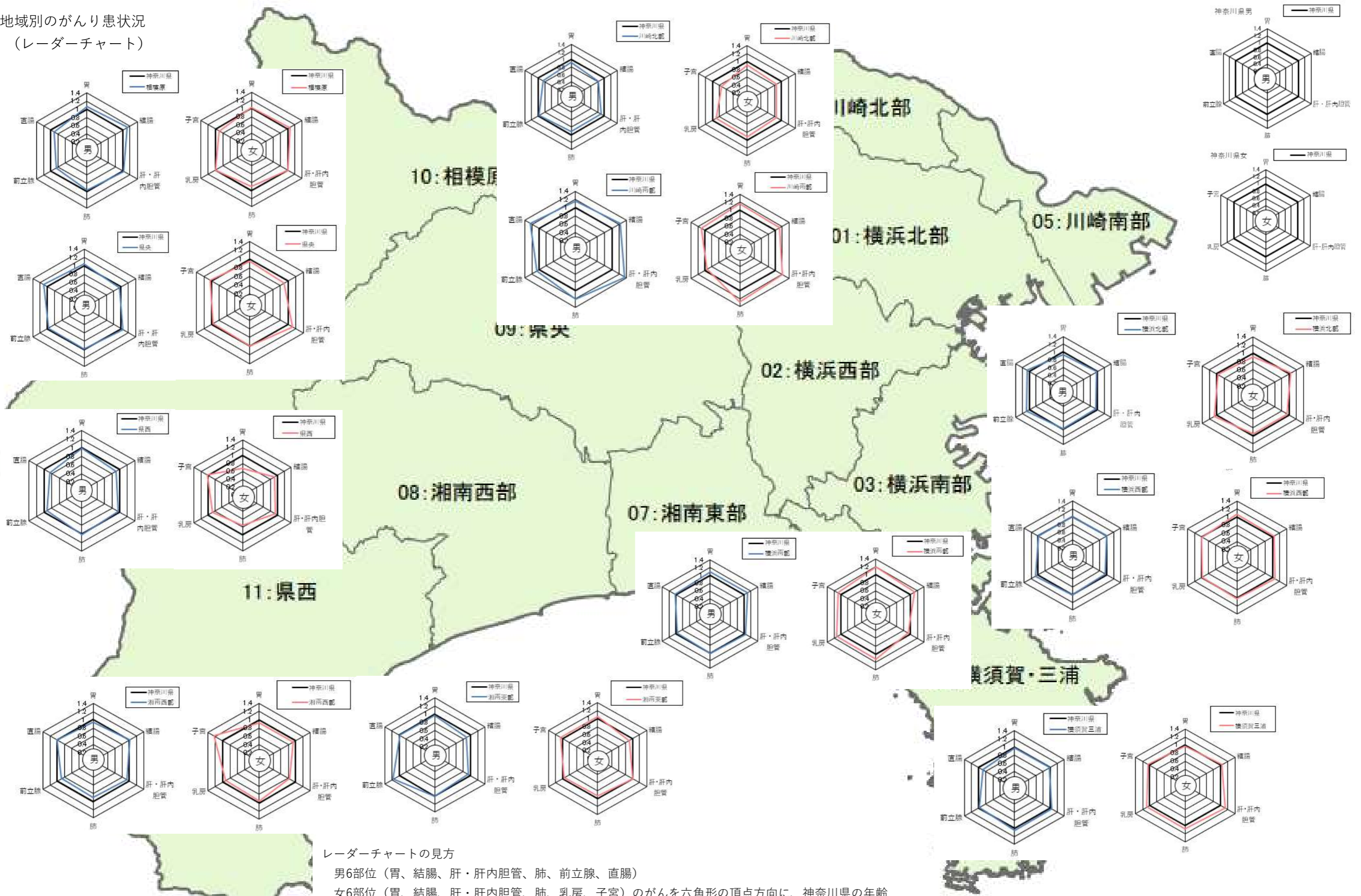


図8 地域区分

二次保健医療圏名	市区町村名
横浜市	
横浜北部	鶴見区、神奈川区、港北区、緑区、青葉区、都筑区
横浜西部	西区、保土ヶ谷区、旭区、戸塚区、泉区、瀬谷区
横浜南部	中区、南区、港南区、磯子区、金沢区、栄区
川崎北部	高津区、宮前区、多摩区、麻生区
川崎南部	川崎区、幸区、中原区
横須賀・三浦	横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町
湘南東部	藤沢市、茅ヶ崎市、寒川町
湘南西部	平塚市、秦野市、伊勢原市、大磯町、二宮町
県央	厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村
相模原	相模原市
県西	小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町
計9圏域(旧:11圏域)	19市13町1村

(2) 地域別のがん罹患状況
(レーダーチャート)



レーダーチャートの見方

男6部位（胃、結腸、肝・肝内胆管、肺、前立腺、直腸）
 女6部位（胃、結腸、肝・肝内胆管、肺、乳房、子宮）のがんを六角形の頂点方向に、神奈川県内の年齢調整り患率とした比率（各地域の年齢調整り患率÷県の年齢調整り患率）で表現している。
 各頂点（破線部分）は県の年齢調整り患率と等しい場合（比率が1.0）を表し、県平均より高い場合（1.0以上）は頂点より外側へ、低い場合（1.0以下）は内側へくる。

図9 地域別のがんの罹患マップ（2021-2022年）

(3) がんのり患マップ

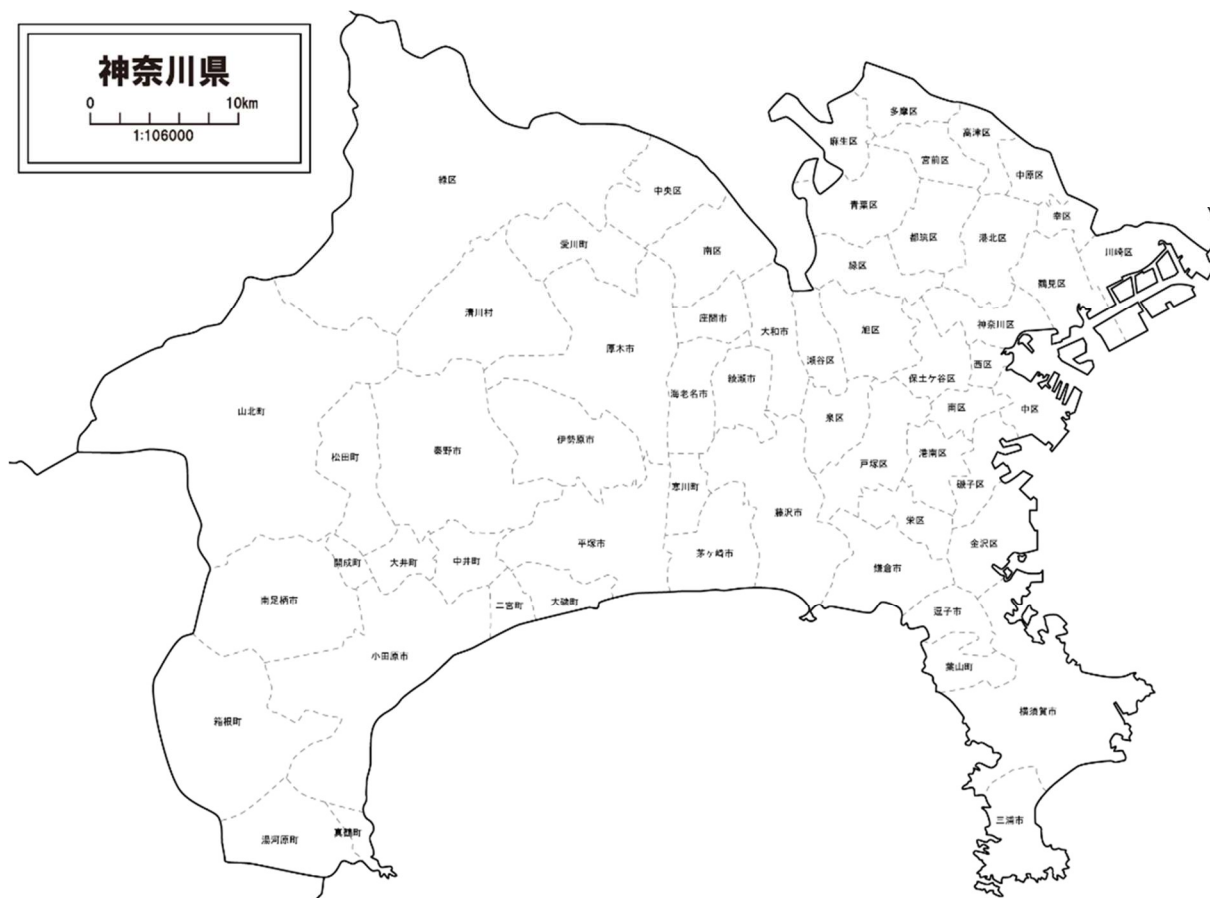


図 10 がんり患マップ市区町村地図

神奈川県内の各市区町村別に部位別年齢調整り患率（2021-2022 年）を計算し、り患率の高いところより濃淡で 4 段階に分類して作図した。また図中の 4 段階の分類の基準のり患率と神奈川県の年齢調整り患率（人口 10 万対の値）を県平均として、図 11 にのせた。濃い色になるに従って年齢調整り患率が高くなっている。

全部位で高いり患率を示したところは、男は中井町、女は大磯町であった。り患率の低いところは、男は湯河原町、女は川崎市宮前区であった。

り患率は、届出の精度との関係があるため、届出の精度も併せてみる必要がある。

主要部位については図 11-1 から図 11-14 までに図示している。

図 11 では各市区町村について全部位および各部位の年齢調整り患率（10 万人対、世界人口モデルで調整）について最小値、第 1 四分位数、中央値、第 3 四分位数、最大値で区切り、4 種類で塗り分けた。

図11-1 全部位（男）

年齢調整り患率 2021-2022年

各市区町村について全部位および各部位の年齢調整り患率（2021-2022年、10万人対、世界人口モデルで調整）を

- 最小値
- 第1四分位数
- 中央値
- 第3四分位数
- 最大値 で区切り

り患率の高いところより濃淡で4種類で塗り分けた。

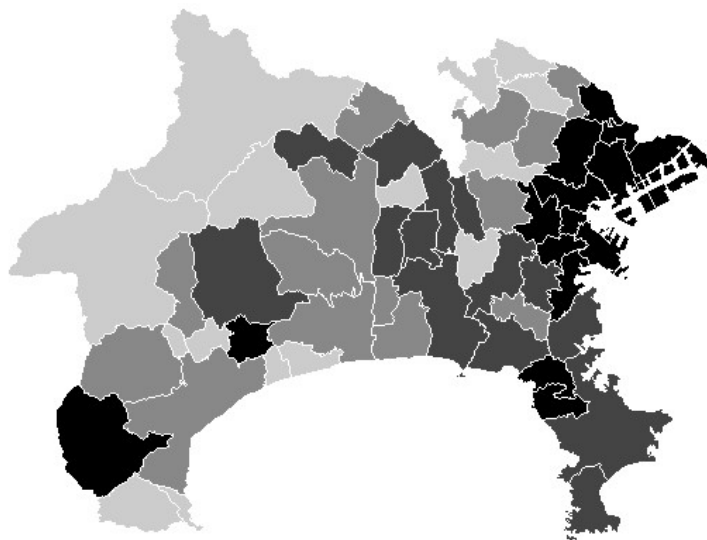
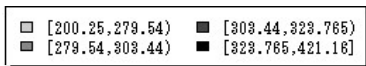


図11-2 全部位（女）

年齢調整り患率 2021-2022年

各市区町村について全部位および各部位の年齢調整り患率（2021-2022年、10万人対、世界人口モデルで調整）を

- 最小値
- 第1四分位数
- 中央値
- 第3四分位数
- 最大値 で区切り

り患率の高いところより濃淡で4種類で塗り分けた。

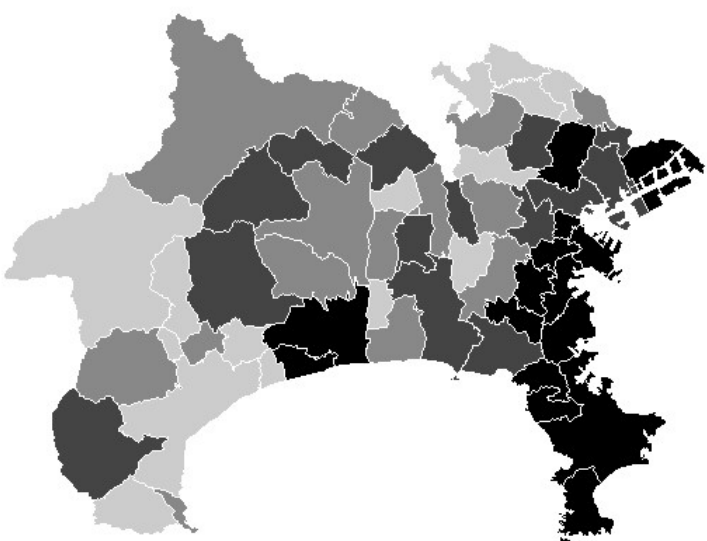


図11-3 胃（男）

年齢調整り患率 2021-2022年

各市区町村について全部位および各部位の年齢調整り患率（2021-2022年、10万人対、世界人口モデルで調整）を

- 最小値
- 第1四分位数
- 中央値
- 第3四分位数
- 最大値 で区切り

り患率の高いところより濃淡で4種類で塗り分けた。

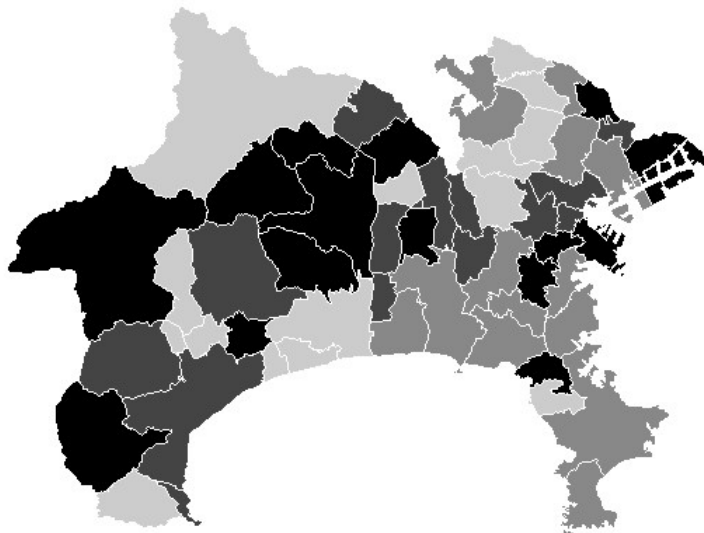


図11-4 胃（女）

年齢調整り患率 2021-2022年

各市区町村について全部位および各部位の年齢調整り患率（2021-2022年、10万人対、世界人口モデルで調整）を

- 最小値
- 第1四分位数
- 中央値
- 第3四分位数
- 最大値 で区切り

り患率の高いところより濃淡で4種類で塗り分けた。

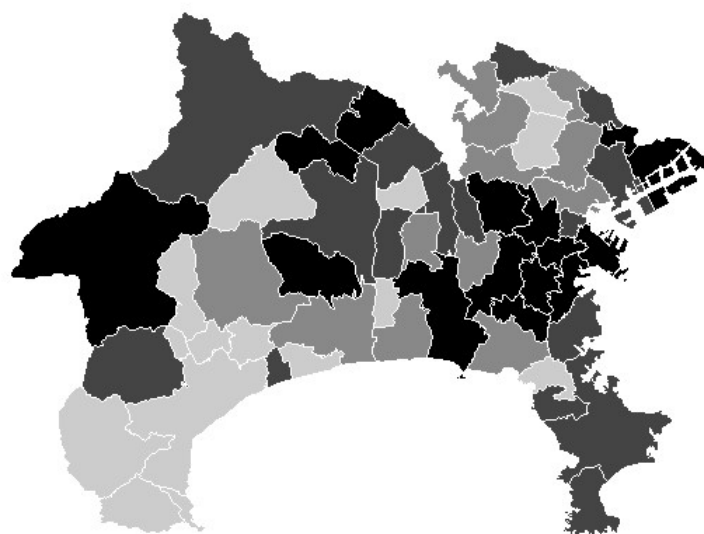


図11-5 結腸（男）

年齢調整り患率 2021-2022年

各市区町村について全部位および各部位の年齢調整り患率（2021-2022年、10万人対、世界人口モデルで調整）を

- 最小値
- 第1四分位数
- 中央値
- 第3四分位数
- 最大値 で区切り

り患率の高いところより濃淡で4種類で塗り分けた。

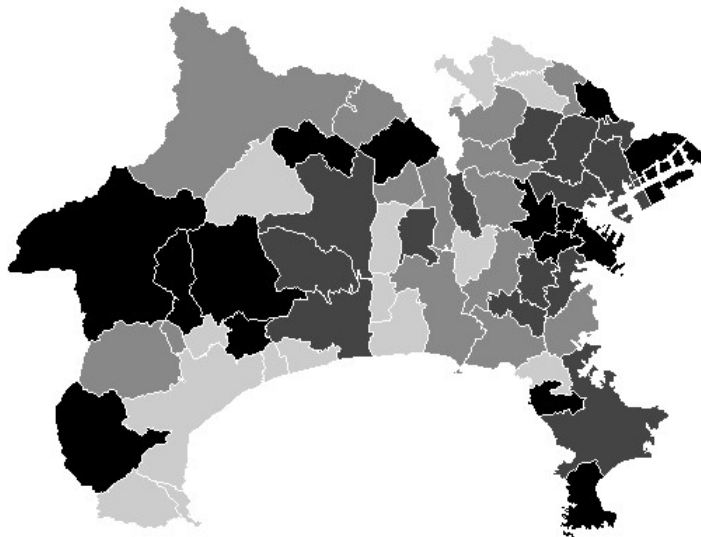
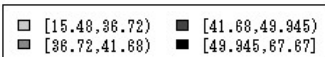


図11-6 結腸（女）

年齢調整り患率 2021-2022年

各市区町村について全部位および各部位の年齢調整り患率（2021-2022年、10万人対、世界人口モデルで調整）を

- 最小値
- 第1四分位数
- 中央値
- 第3四分位数
- 最大値 で区切り

り患率の高いところより濃淡で4種類で塗り分けた。

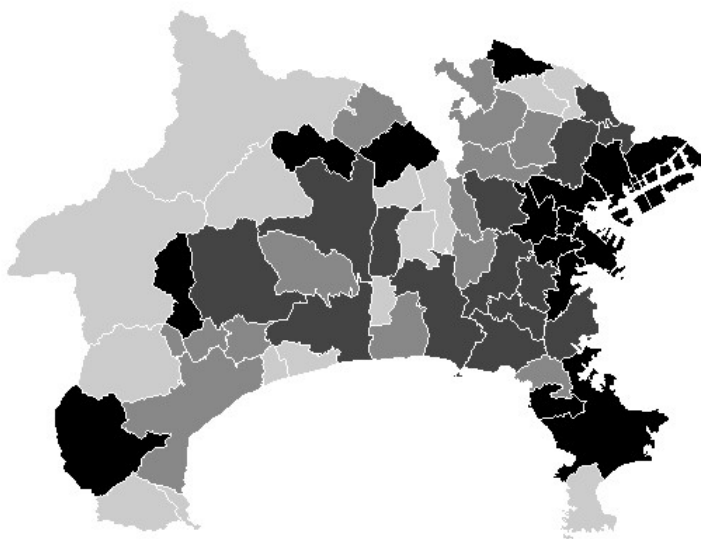


図11-7 肝・肝内胆管（男）

年齢調整り患率 2021-2022年

各市区町村について全部位および各部位の年齢調整り患率（2021-2022年、10万人対、世界人口モデルで調整）を

- 最小値
- 第1四分位数
- 中央値
- 第3四分位数
- 最大値 で区切り

り患率の高いところより濃淡で4種類で塗り分けた。

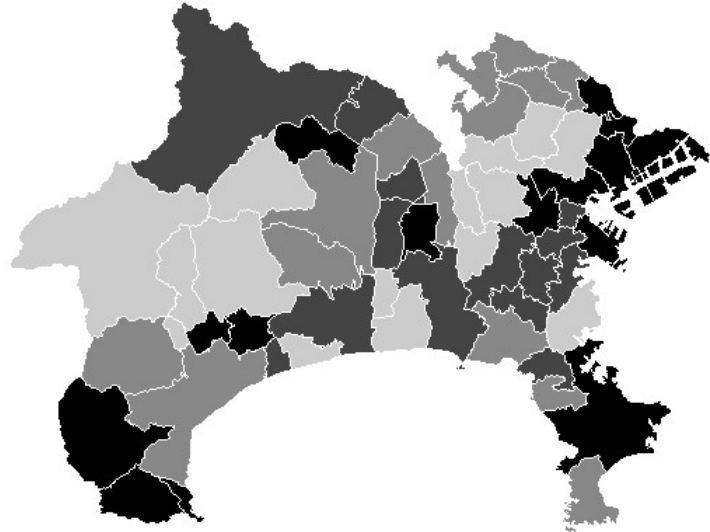


図11-8 肝・肝内胆管（女）

年齢調整り患率 2021-2022年

各市区町村について全部位および各部位の年齢調整り患率（2021-2022年、10万人対、世界人口モデルで調整）を

- 最小値
- 第1四分位数
- 中央値
- 第3四分位数
- 最大値 で区切り

り患率の高いところより濃淡で4種類で塗り分けた。

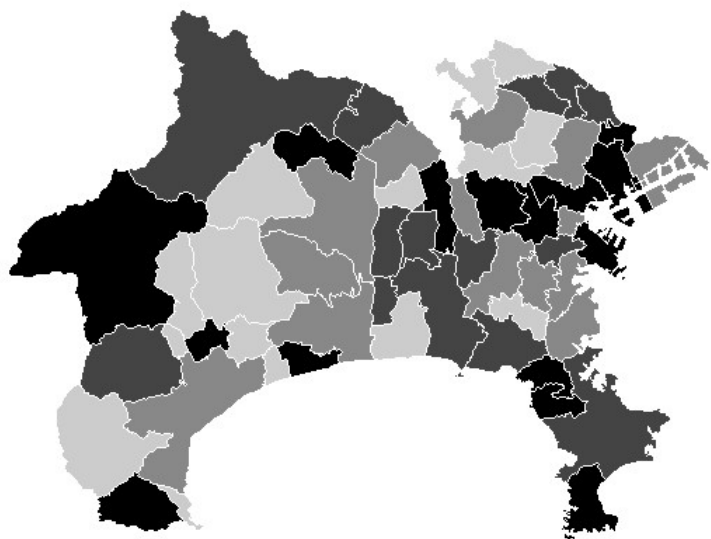


図11-9 肺（男）

年齢調整り患率 2021-2022年

各市区町村について全部位および各部位の年齢調整り患率（2021-2022年、10万人対、世界人口モデルで調整）を

- 最小値
- 第1四分位数
- 中央値
- 第3四分位数
- 最大値 で区切り

り患率の高いところより濃淡で4種類で塗り分けた。

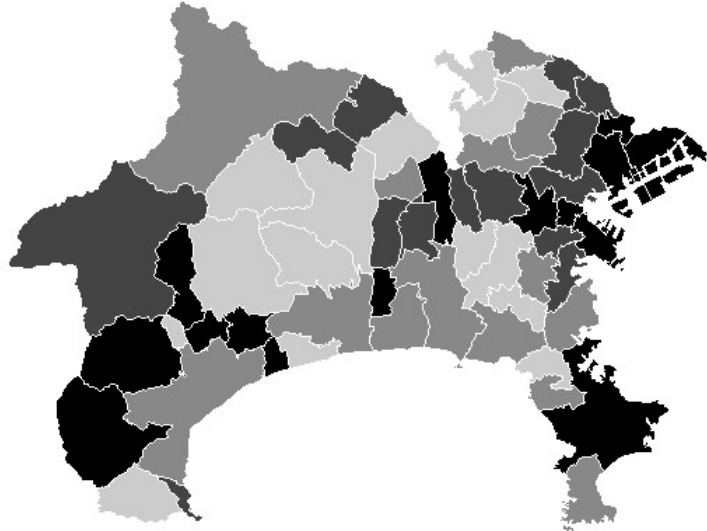


図11-10 肺（女）

年齢調整り患率 2021-2022年

各市区町村について全部位および各部位の年齢調整り患率（2021-2022年、10万人対、世界人口モデルで調整）を

- 最小値
- 第1四分位数
- 中央値
- 第3四分位数
- 最大値 で区切り

り患率の高いところより濃淡で4種類で塗り分けた。

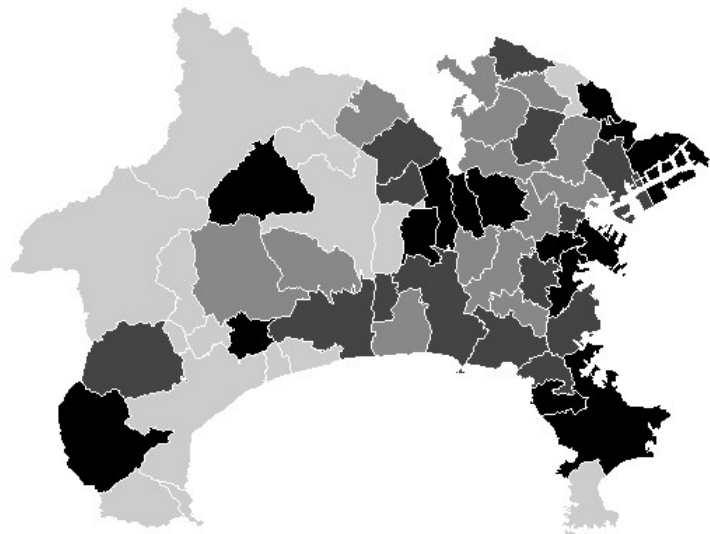
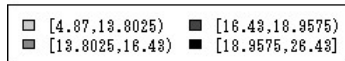


図11-11 前立腺（男）

年齢調整り患率 2021-2022年

各市区町村について全部位および各部位の年齢調整り患率（2021-2022年、10万人対、世界人口モデルで調整）を

最小値
第1四分位数
中央値
第3四分位数
最大値 で区切り

り患率の高いところより濃淡で4種類で塗り分けた。

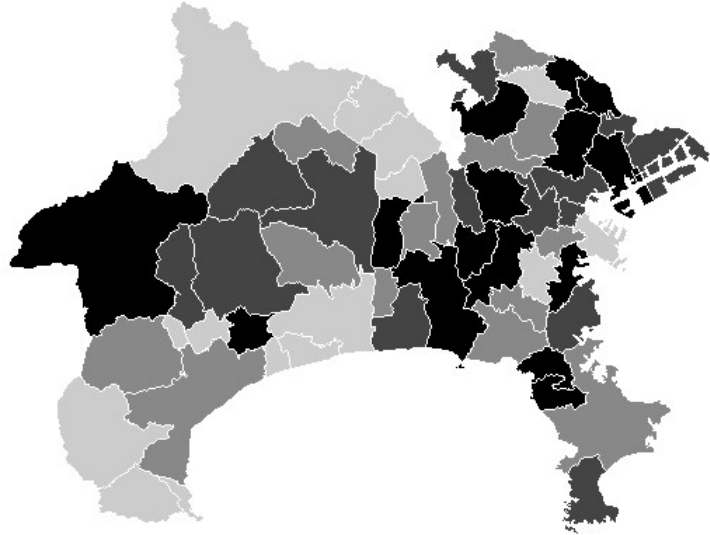


図11-12 膀胱（男）

年齢調整り患率 2021-2022年

各市区町村について全部位および各部位の年齢調整り患率（2021-2022年、10万人対、世界人口モデルで調整）を

最小値
第1四分位数
中央値
第3四分位数
最大値 で区切り

り患率の高いところより濃淡で4種類で塗り分けた。

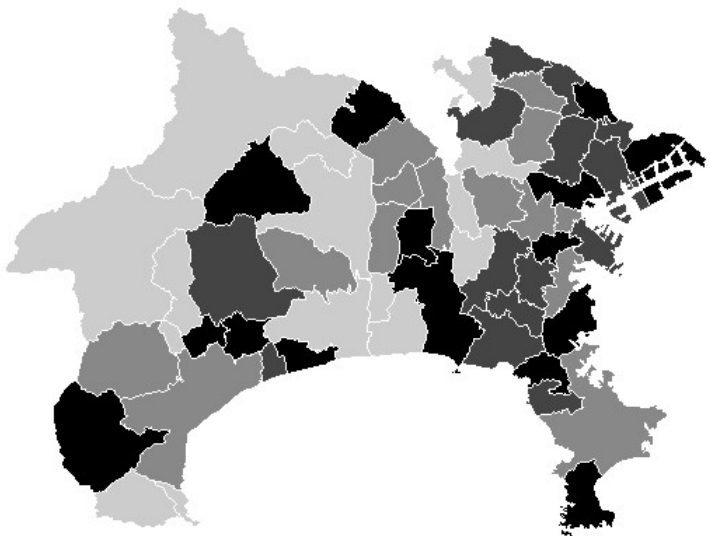
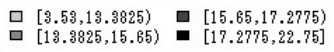


図11-13 乳房（女）

年齢調整り患率 2021-2022年

各市区町村について全部位および各部位の年齢調整り患率（2021-2022年、10万人対、世界人口モデルで調整）を

- 最小値
- 第1四分位数
- 中央値
- 第3四分位数
- 最大値 で区切り

り患率の高いところより濃淡で4種類で塗り分けた。

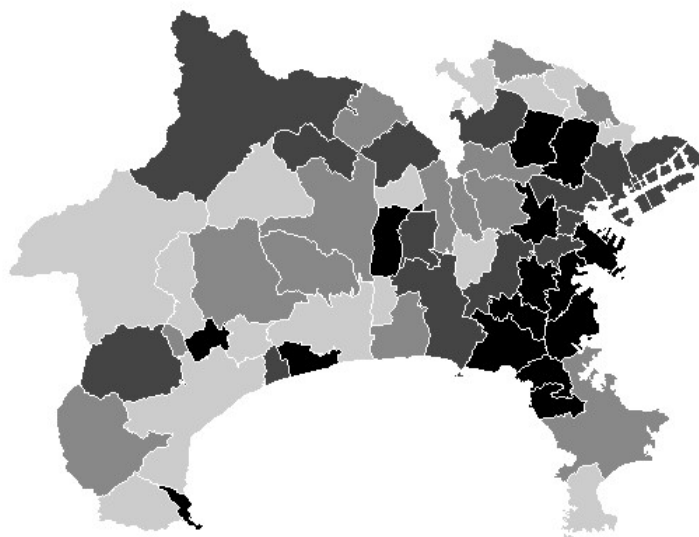


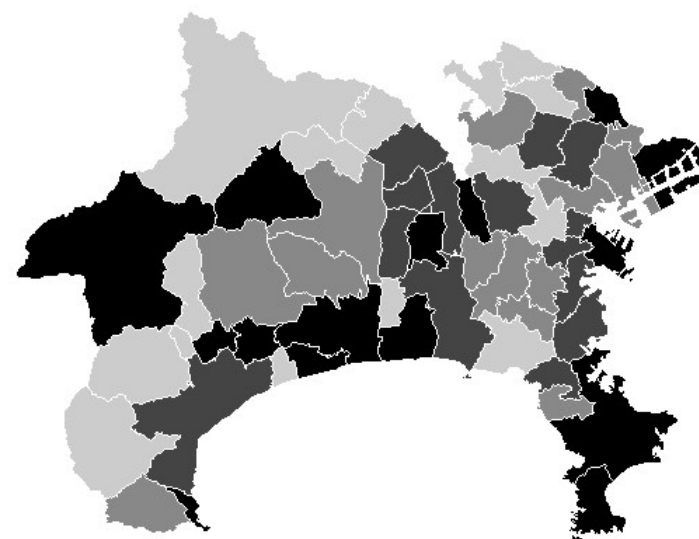
図11-14 子宮（女）

年齢調整り患率 2021-2022年

各市区町村について全部位および各部位の年齢調整り患率（2021-2022年、10万人対、世界人口モデルで調整）を

- 最小値
- 第1四分位数
- 中央値
- 第3四分位数
- 最大値 で区切り

り患率の高いところより濃淡で4種類で塗り分けた。



3. 経年の観察

(1) 年齢調整り患率（人口 10 万対）の年次推移

がんのり患の状況について、神奈川県悪性新生物登録事業が発足した昭和 45 年から今回集計した令和 4 年までを、り患の多い部位について経年的に図示した（図 12）。部位別にみると胃のり患率の減少がみられている。胃では男女それぞれ昭和 45 年のり患率は 86.6、48.4 であったが、令和 4 年は 32.1、13.4 であり男は減少している（付表 25）。逆に、増加傾向を示している部位は、男では肺、結腸、直腸、前立腺、女では乳房、子宮、結腸、肺、直腸であった（付表 25）。

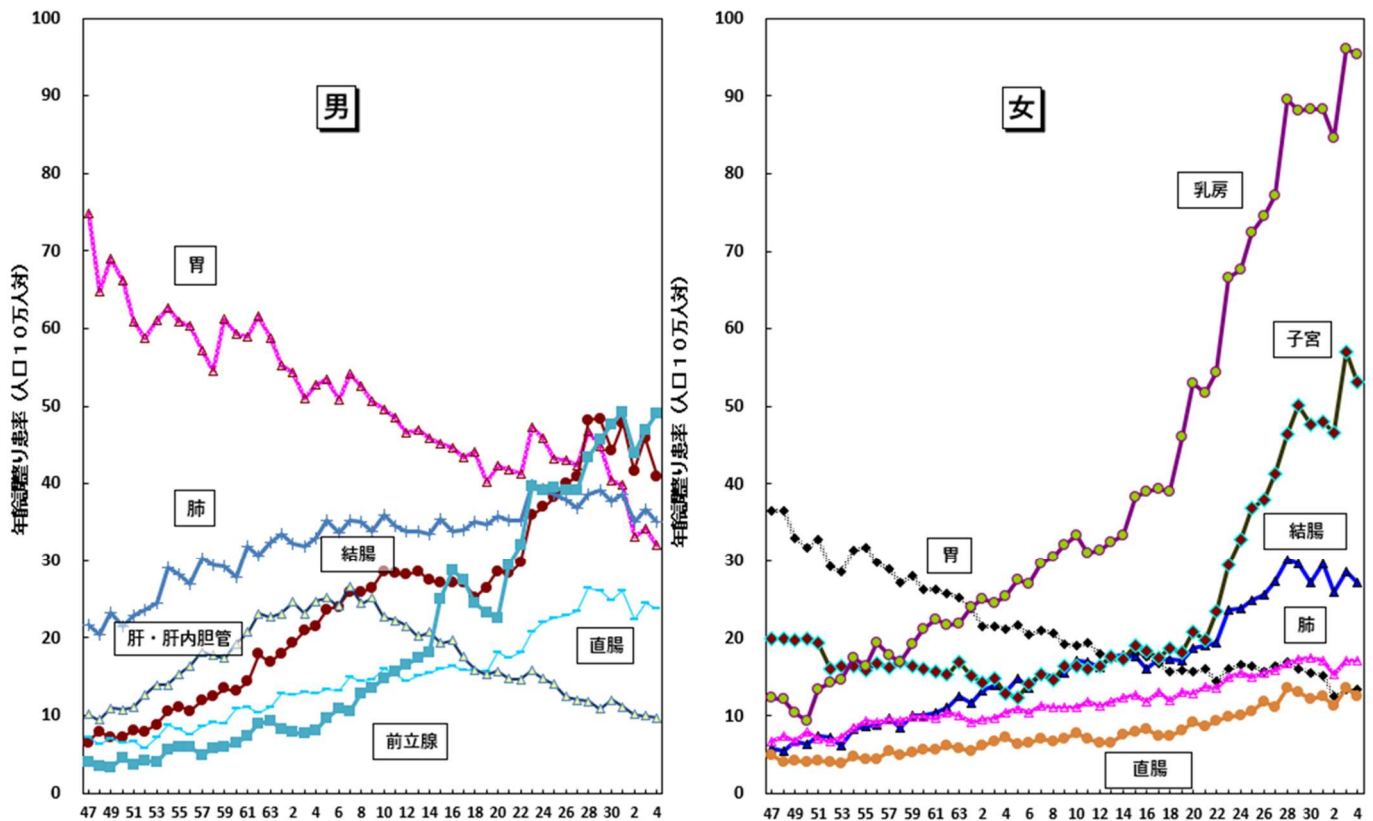


図 12 年齢調整り患率の年次推移

(2) 年齢階級別のがんり患率の年次推移

昭和 63 年から令和 4 年までの 34 年間で 12 の期間（昭和 63～平成 2 年、平成 3～5 年、平成 6～8 年、平成 9～11 年、平成 12～14 年、平成 15～17 年、平成 18～20 年、平成 21～23 年、平成 24～26 年、平成 27～29 年、平成 30～令和 2 年、令和 3～4 年）に分けて計算した。年齢階級は 0～14 歳、15～39 歳、40～64 歳、65 歳以上の 4 グループに分けて年次変化をみた（図 13）。

部位別では胃や肝・肝内胆管で男女の減少がみられるが、口腔・咽頭、結腸、直腸、肺、膀胱、皮膚、前立腺、乳房、卵巣に増加がみられる。年齢階級別にみると、り患率が高いのは 65 歳以上の世代であるが、子宮においてり患率が高いのは 40～64 歳の世代である。

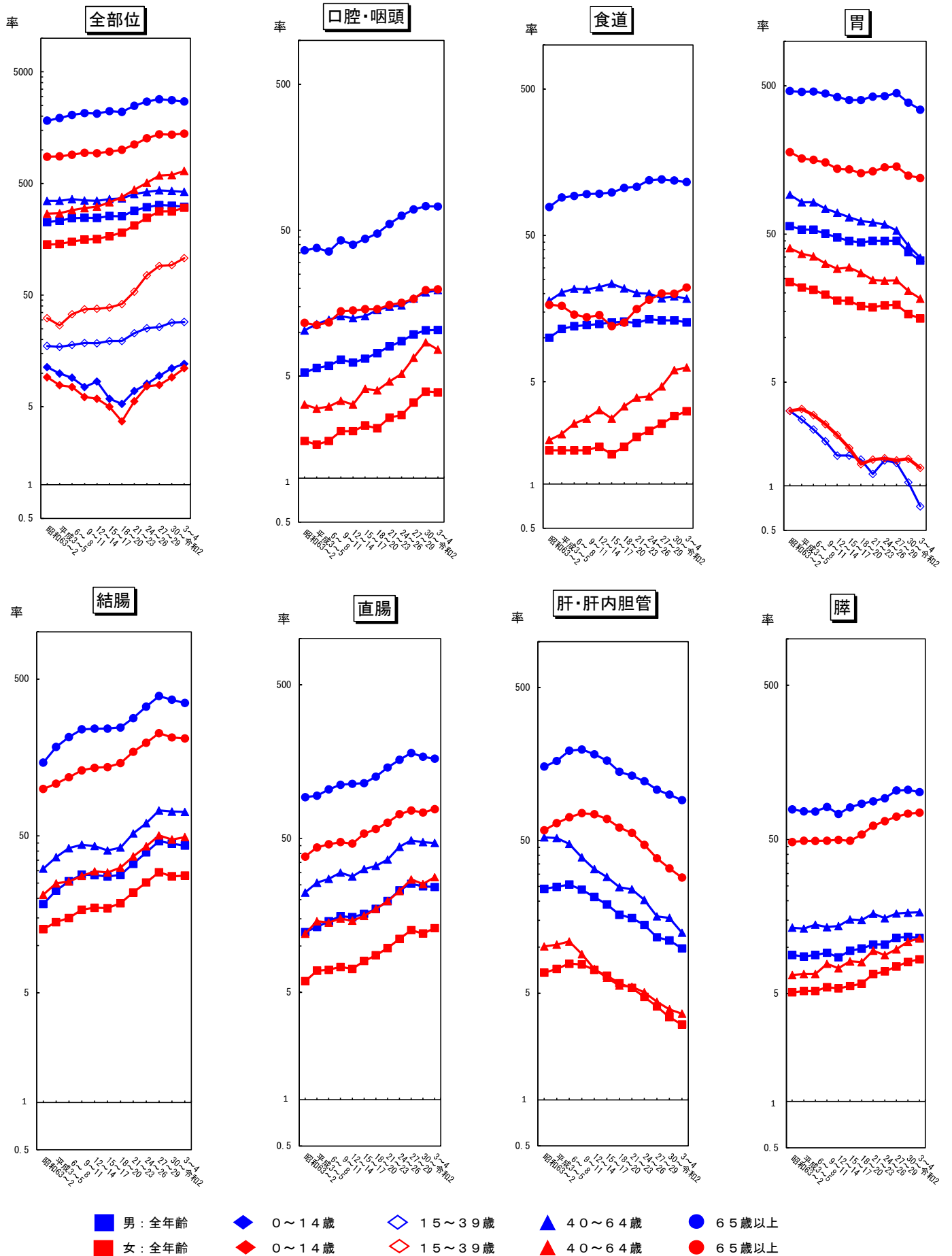


図13-1 主要部位別 年齢階級別年齢調整り患率の比較

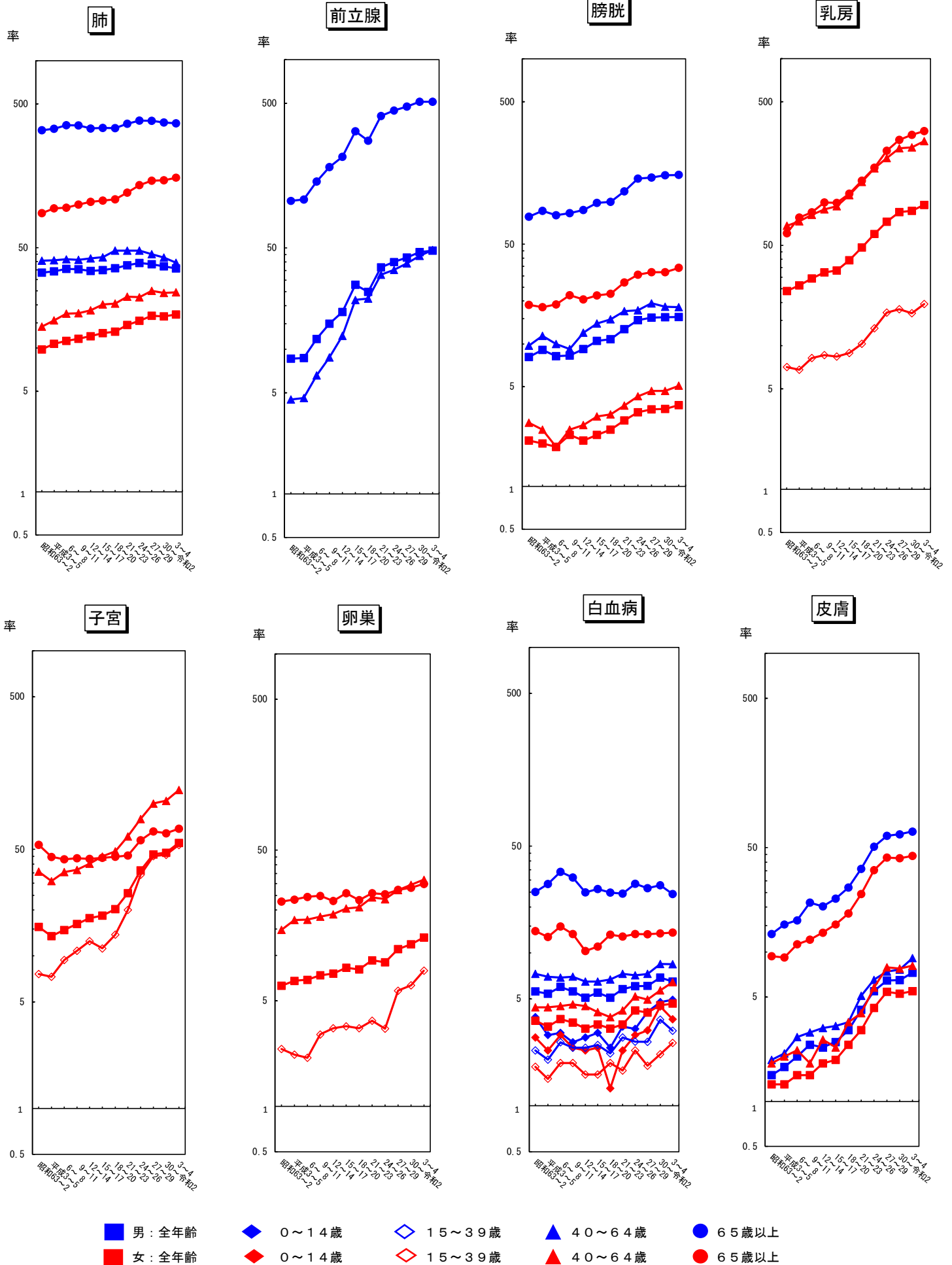


図13-2 主要部位別 年齢階級別年齢調整り患率の比較

(3) 年齢調整り患率と年齢調整死亡率の年次推移

全部位と対策型がん検診が実施されている中で、胃、肺、乳房、子宮の部位について、全年齢、40～49歳、50～59歳、60～69歳、70歳以上の年齢階級別の人口10万対の年齢調整り患率、年齢調整死亡率を経年的に図示した（図14）。

この図及び付表23より、り患率と死亡率の差（開き）が経年的に大きくなっていることが観察される。また、高齢となるにしたがってり患率と死亡率の差（開き）が小さくなっている。

部位別にみると、胃はり患率、死亡率ともに減少傾向を示している。肺、乳房のがんは上昇している。また、年齢階級別にみると、胃、肺は高齢となるに従ってり患率も高くなっているが、乳房、子宮は各世代によるり患率の変化はみられない。

肺はり患率と死亡率の差（開き）が高齢となるに従って小さくなっている。

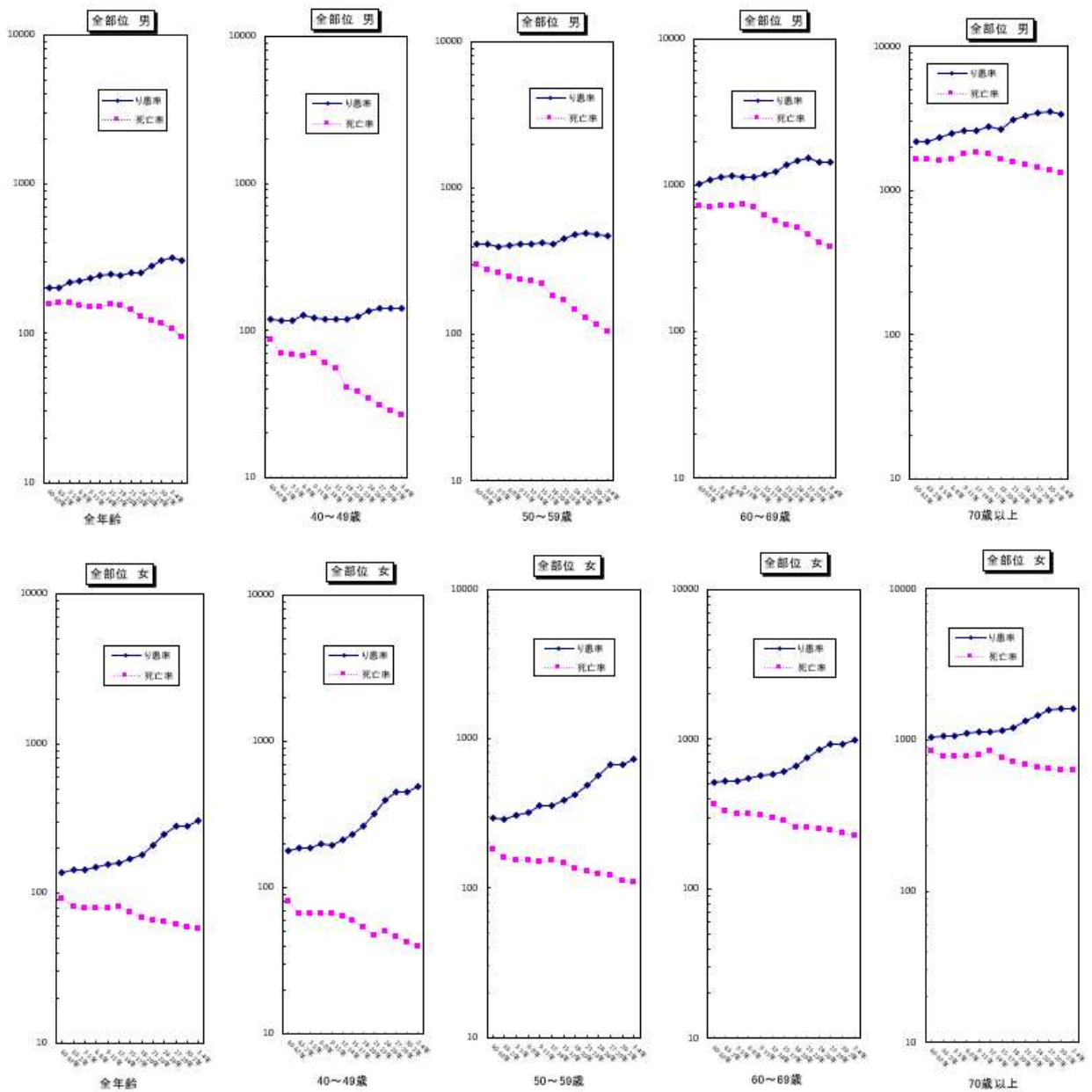


図14-1 年齢調整り患率と年齢調整死亡率の経年変化

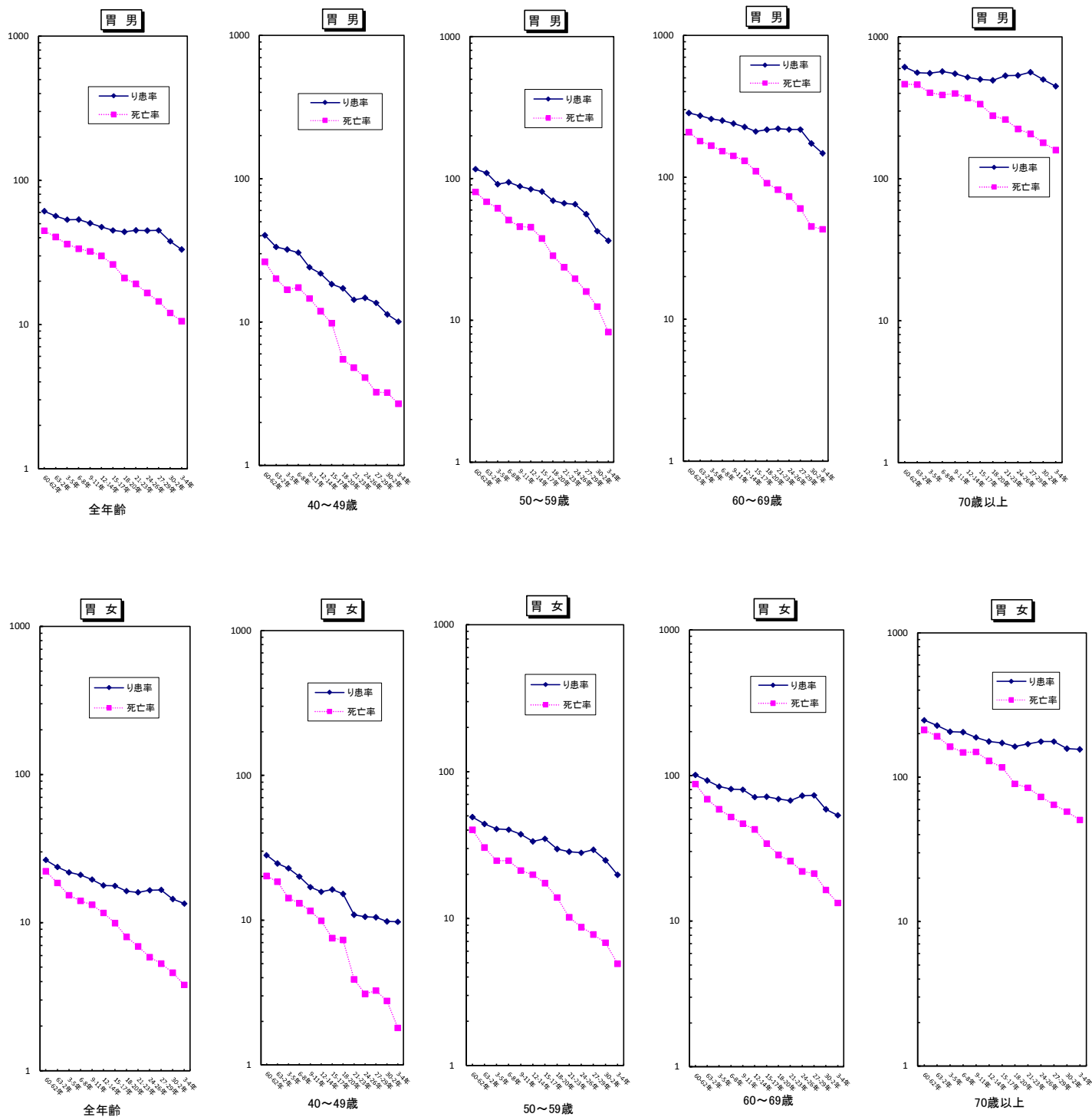


図14-2 年齢調整り患率と年齢調整死亡率の経年変化

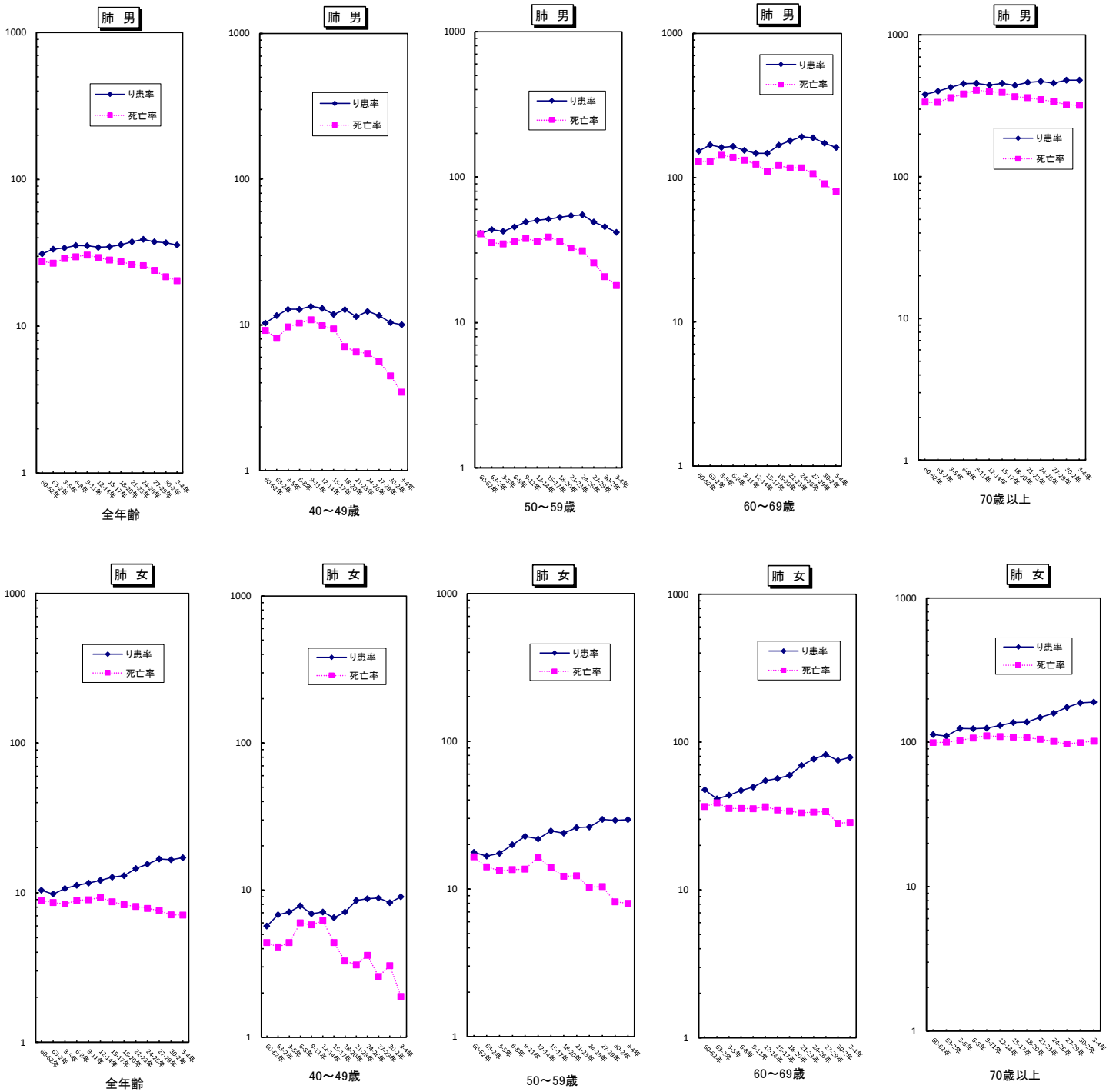


図14-3 年齢調整り患率と年齢調整死亡率の経年変化

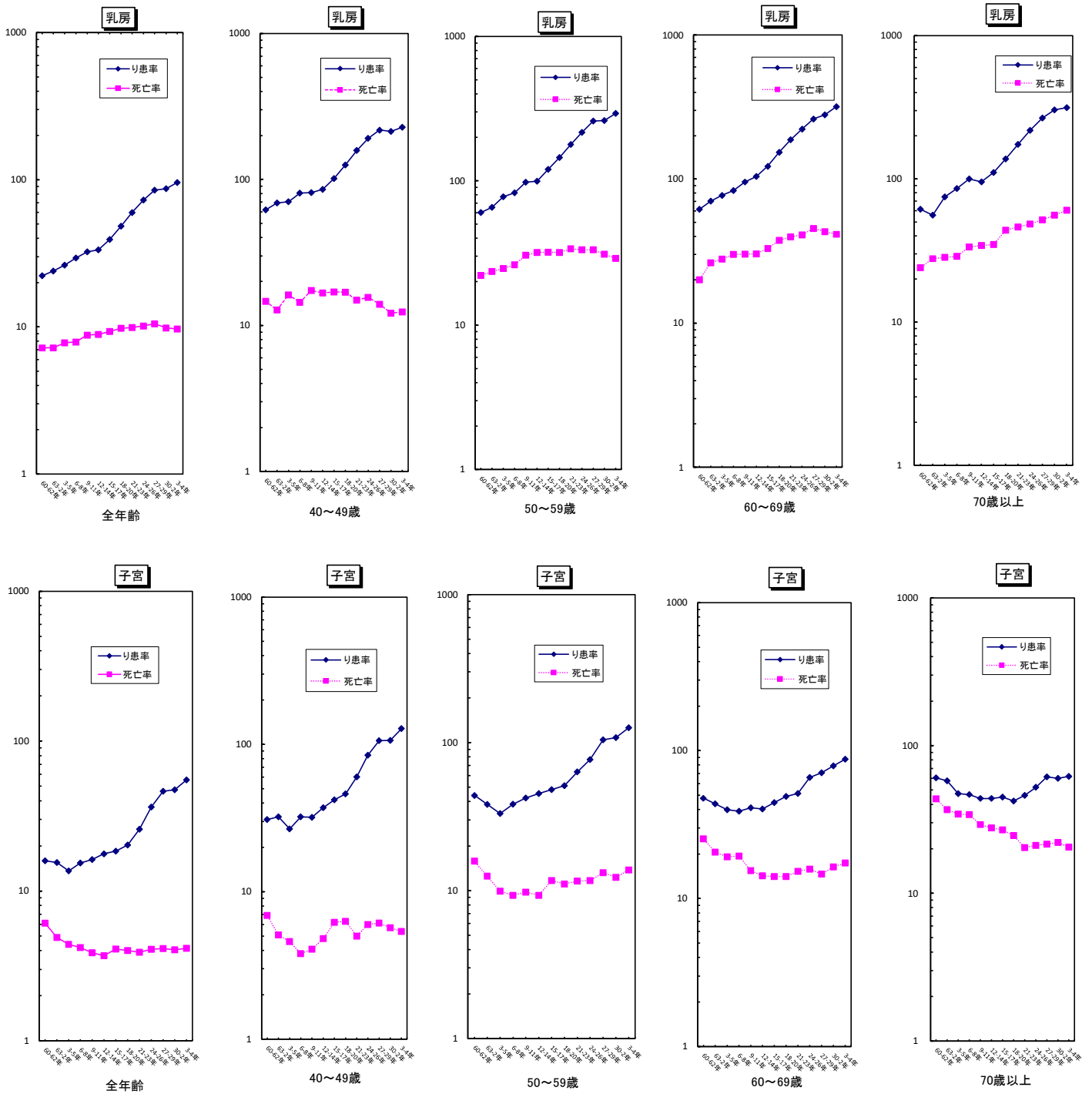


図14-4 年齢調整り患率と年齢調整死亡率の経年変化

4.登録の精度（届出と診断の精度）

地域がん登録（神奈川県悪性新生物登録事業）では、県下の各医療機関からの届出票と、死亡票からの届出漏れ患者の登録により、り患数を算定している。この算定されたり患数が、当該地域の真のり患数をどの程度反映しているかを示す指標の一つとして、り患数に対する死亡票からのみ登録された患者の割合（以下「死亡票のみの割合」という。）が用いられている。また、届出された資料の診断の精度の指標として、届出り患数またはり患数に対して、診断方法としての組織診または細胞診が実施された患者数の割合（以下「組織診・細胞診ありの割合」という。）が用いられている。死亡票の割合が低いほど「地域がん登録」で算出した、り患率の信頼性が高く、組織診・細胞診ありの割合が高いほど診断の精度が高くなる。

2022年の登録の精度は、死亡票のみの割合が4.4%であり、組織診・細胞診ありの割合（届出り患数に対する）は92.4%であった（表6-1）。2021年の精度と比較すると、死亡票のみの割合は4.4%と変化なく、組織診・細胞診ありの割合は92.3%から92.4%と0.1ポイント上昇した。地域がん登録の目標として、死亡票のみの割合を20%以下にすることが望まれているが、神奈川県では2010年より20%以下となり、2013年には県下全域で達成した。2022年は最も精度が高い地域が県央、次いで湘南西部であった。

登録の精度を主要部位別にみると、死亡票のみの割合が低い部位は皮膚、喉頭、子宮の順であり、組織診・細胞診ありの割合が高い部位は子宮、皮膚、乳房の順であった。逆に、死亡票のみの割合が最も高いのは脳、骨、肝・肝内胆管の順であり、組織診・細胞診ありの割合が低いのは、肝・肝内胆管、膵、胆のう・胆管の順であった（表6、図15）。

二次保健医療圏別にみると、死亡票のみの割合が低いのは県央、次いで湘南西部であり届出の精度は非常に良くなってきた。逆にこの割合が高かったのは川崎北部であった。組織診・細胞診ありの割合は全地域92.4%、とりわけ横浜南部が良好であった（表6-2）。

市区町村別は図16及び付表10、11に示した。なお、地域別の精度の違いを検討する際には、患者の居住地域と診断・届出医療機関の所在地域とが異なる場合があることを注意しておく必要がある。

表6 登録の精度(届出と診断の精度)

1.主要部位別

2022年

部 位	ICD-10	り患数(I)	届出り患数(R)	死亡票のみ の数(D)	組織診・細胞 診の実施数 (H)	(I)に対する死亡票 のみの割合(D/I) (%)	(R)に対する組織診・ 細胞診の割合(H/R) (%)
全部位	C00-C96・D06	72,801	69,562	3,239	64,294	4.4	92.4
口腔・咽頭	C00-C14	1,643	1,589	54	1,532	3.3	96.4
食道	C15	2,002	1,920	82	1,871	4.1	97.5
胃	C16	7,168	6,870	298	6,734	4.2	98.0
結腸	C18	9,237	8,893	344	8,573	3.7	96.4
直腸	C19-C20	4,205	4,110	95	4,018	2.3	97.8
肝・肝内胆管	C22	1,891	1,667	224	647	11.8	38.8
胆のう・胆管	C23-C24	1,271	1,143	128	886	10.1	77.5
膵	C25	3,061	2,774	287	2,030	9.4	73.2
喉頭	C32	311	307	4	299	1.3	97.5
肺	C33-C34	7,907	7,309	598	6,053	7.6	82.8
骨	C40-C41	60	52	8	51	13.3	98.1
皮膚	C43-C44	2,025	2,015	10	1,994	0.5	99.0
乳房	C50	8,517	8,331	186	8,221	2.2	98.7
子宮	C53-C55・D06	3,416	3,362	54	3,331	1.6	99.1
卵巣	C56	991	945	46	913	4.6	96.7
前立腺	C61	7,092	6,950	142	6,556	2.0	94.3
腎	C64	1,294	1,226	68	1,060	5.3	86.5
膀胱	C67	2,950	2,870	80	2,770	2.7	96.5
脳	C71	357	299	58	241	16.2	80.6
甲状腺	C73	886	869	17	848	1.9	97.6
白血病	C91-C95	886	834	52	822	5.9	98.5

2.二次保健医療圏別

地 域	り患数(I)	届出り患数(R)	死亡票のみ の数(D)	組織診・細胞 診の実施数 (H)	(I)に対する死亡票 のみの割合(D/I) (%)	(R)に対する組織 診・細胞診の割合 (H/R)(%)
神奈川県	72,801	69,562	3,239	64,294	4.4	92.4
横浜市	29,726	28,460	1,266	26,437	4.3	92.9
横浜北部	11,339	10,861	478	10,060	4.2	92.6
横浜西部	9,009	8,573	436	7,934	4.8	92.6
横浜南部	9,378	9,026	352	8,444	3.8	93.5
川崎市	10,099	9,489	610	8,777	6.0	92.5
川崎北部	5,216	4,838	378	4,505	7.2	93.1
川崎南部	4,883	4,651	232	4,269	4.8	91.8
横須賀・三浦	6,690	6,411	279	5,888	4.2	91.8
湘南東部	5,855	5,646	209	5,232	3.6	92.7
湘南西部	4,983	4,834	149	4,450	3.0	92.1
県 央	6,761	6,570	191	6,029	2.8	91.8
相 模 原	5,721	5,389	332	5,005	5.8	92.9
県 西	2,966	2,763	203	2,477	6.8	89.6

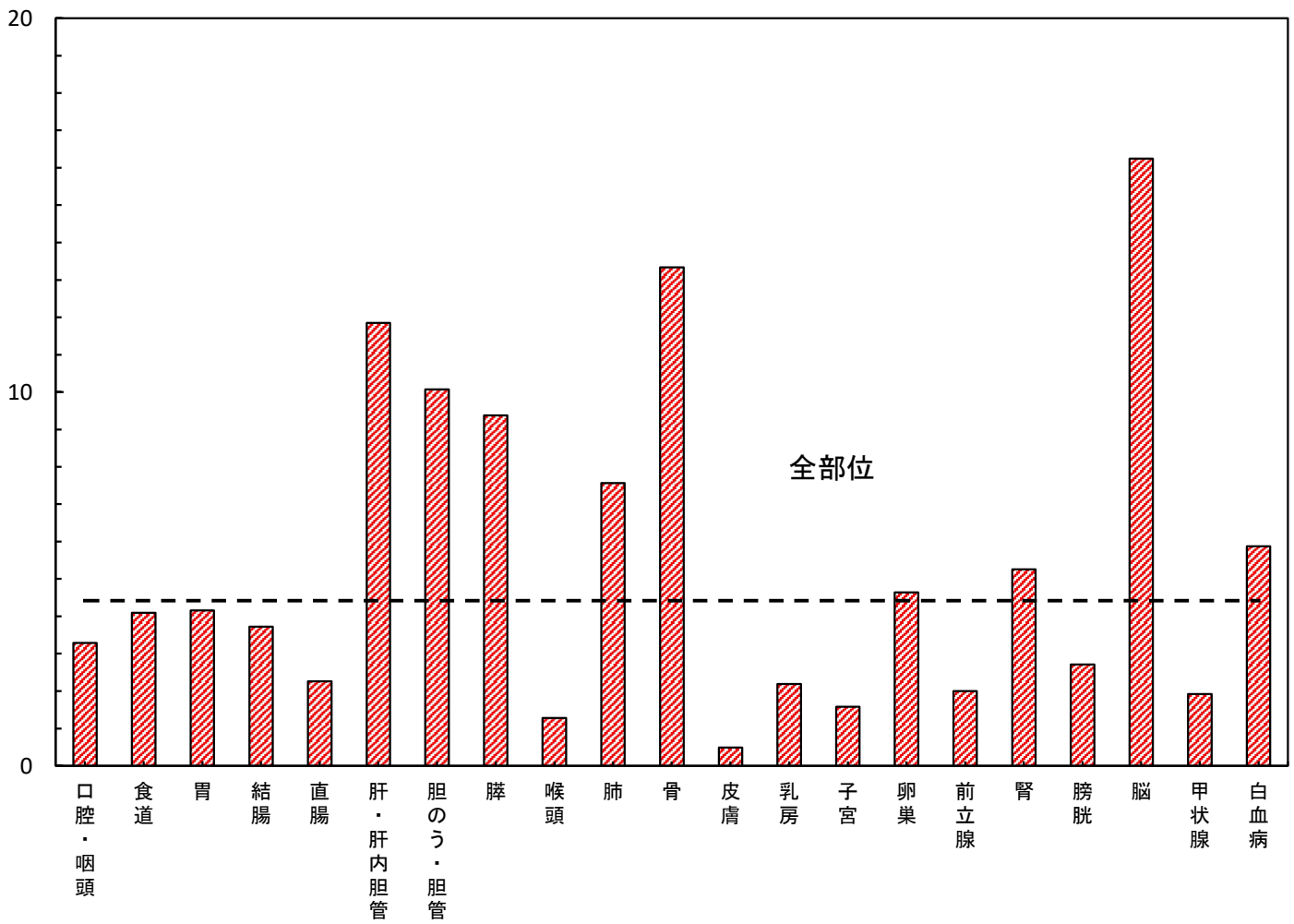


図15 リ患数に対する死亡小票のみの割合(部位別)－2022年

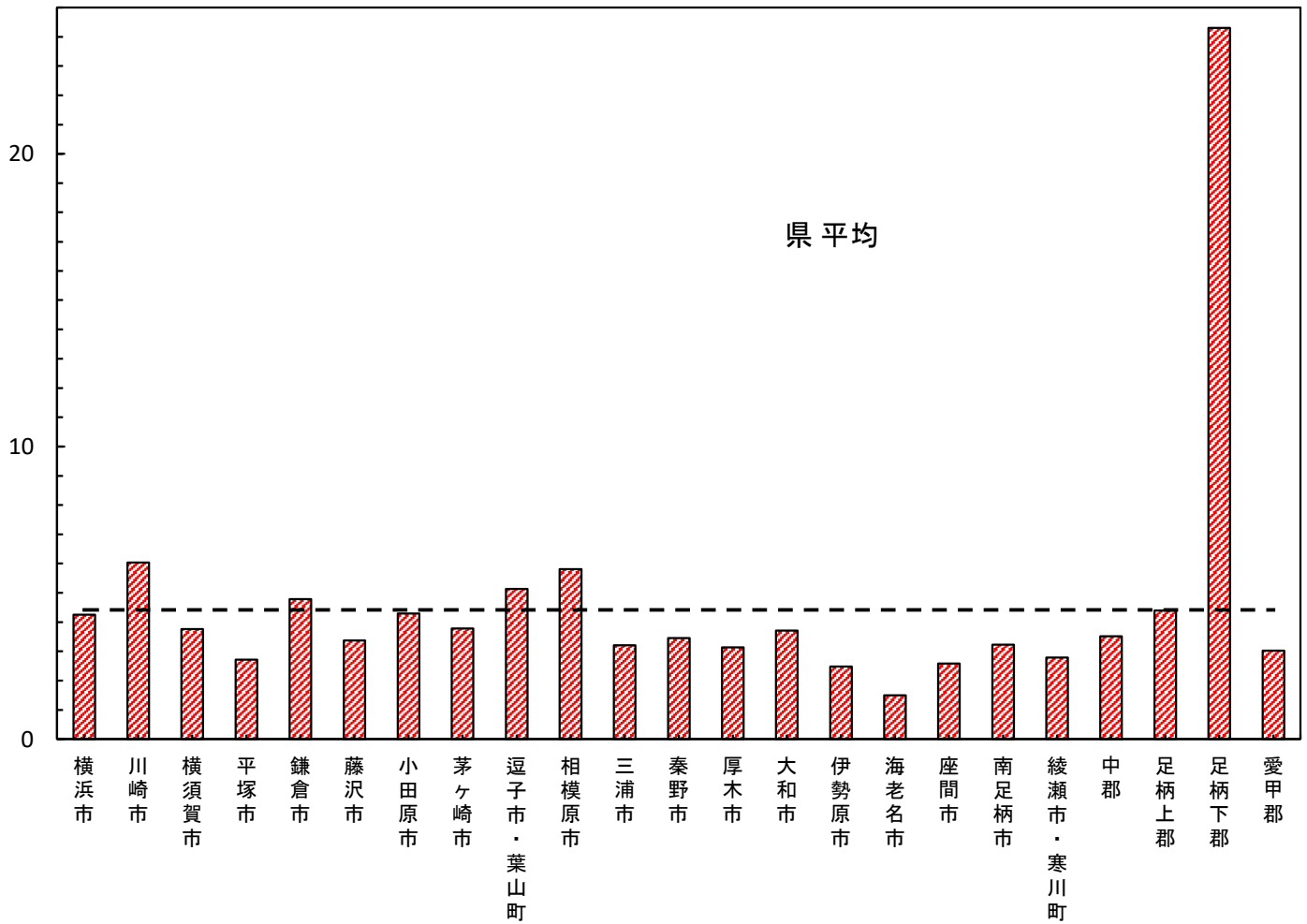


図16 り患数に対する死亡小票のみの割合(市町村別)－2022年

5. 受診の動機

(1) 検診で発見されたがん

検診で発見され受診した患者は、届出された 69,562 人中 12,733 人（18.3%）であった。検診経由の者を主要部位別にみたものが表 7 である。

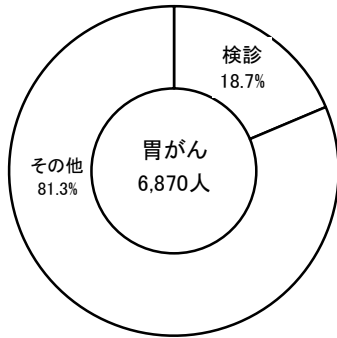
対策型がん検診としておこなわれている部位で、胃がん検診、大腸がん（結腸・直腸）検診、肺がん検診、乳がん検診、子宮がん（頸部）検診において発見されたがんの割合を図 17 に示した。検診で発見されたがんの数が最も多いのは大腸がんであり、2,884 人であった。二次保健医療圏別にこれらを見たものが表 8 である。各地域ともに、検診経由の割合の高いものは子宮頸がんである。地域間の比較をする場合には、各地域の届出状況、検診実施状況を併せてみる必要がある。

部 位	ICD-10	届出患者数(人)	検診経由(人)	検診割合(%)
全部位	C00-C96-D06	69,562	12,733	18.3
口腔・咽頭	C00-C14	1,589	30	1.9
食道	C15	1,920	332	17.3
胃	C16	6,870	1,282	18.7
結腸	C18	8,893	1,991	22.4
直腸	C19-C20	4,110	893	21.7
肝・肝内胆管	C22	1,667	93	5.6
胆のう・胆管	C23-C24	1,143	58	5.1
膵	C25	2,774	162	5.8
喉頭	C32	307	6	2.0
肺	C33-C34	7,309	1,288	17.6
骨	C40-C41	52	0	0.0
皮膚	C43-C44	2,015	5	0.2
乳房	C50	8,331	2,355	28.3
子宮頸部	C53-D06	2,015	685	34.0
子宮体部	C54	1,342	149	11.1
卵巣	C56	945	95	10.1
前立腺	C61	6,950	2,418	34.8
腎	C64	1,226	198	16.2
膀胱	C67	2,870	143	5.0
脳	C71	299	7	2.3
甲状腺	C73	869	127	14.6
白血病	C91-C95	834	82	9.8

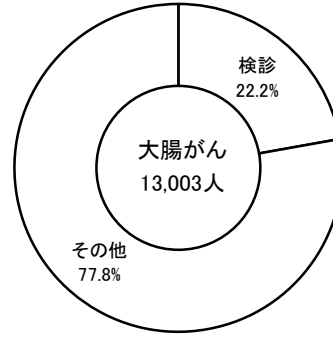
表 7 部位別にみた検診経由患者数とその割合（主要部位） 2022 年

地 域	届出患者数 (R)	集検経由数	胃			大腸(結腸・直腸)			肺			乳房			子宮頸部		
			届出患者数	検診経由	%	届出患者数	検診経由	%	届出患者数	検診経由	%	届出患者数	検診経由	%	届出患者数	検診経由	%
神奈川県	69,562	12,733	6,870	1,282	18.7	13,003	2,884	22.2	7,309	1,288	17.6	8,331	2,355	28.3	2,015	685	34.0
横浜市	28,460	4,989	2,776	457	16.5	5,271	1,036	19.7	2,947	453	15.4	3,506	960	27.4	827	287	34.7
横浜北部	10,861	2,010	933	139	14.9	2,025	446	22.0	1,086	155	14.3	1,415	422	29.8	351	133	37.9
横浜西部	8,573	1,542	869	148	17.0	1,544	257	16.6	939	145	15.4	999	270	27.0	230	89	38.7
横浜南部	9,026	1,437	974	170	17.5	1,702	333	19.6	922	153	16.6	1,092	268	24.5	246	65	26.4
川崎市	9,489	1,826	895	178	19.9	1,722	450	26.1	1,014	176	17.4	1,156	361	31.2	297	116	39.1
川崎北部	4,838	957	448	100	22.3	822	223	27.1	526	100	19.0	627	191	30.5	107	48	44.9
川崎南部	4,651	869	447	78	17.4	900	227	25.2	488	76	15.6	529	170	32.1	190	68	35.8
横須賀・三浦	6,411	1,095	628	87	13.9	1,192	279	23.4	771	121	15.7	770	193	25.1	144	37	25.7
湘南東部	5,646	1,100	540	102	18.9	1,002	255	25.4	597	127	21.3	664	194	29.2	156	45	28.8
湘南西部	4,834	812	469	77	16.4	972	180	18.5	464	92	19.8	508	127	25.0	156	68	43.6
県 央	6,570	1,384	690	190	27.5	1,250	303	24.2	680	152	22.4	774	220	28.4	195	62	31.8
相 模 原	5,389	1,044	606	154	25.4	1,083	271	25.0	541	99	18.3	660	215	32.6	156	49	31.4
県 西	2,763	483	266	37	13.9	511	110	21.5	295	68	23.1	293	85	29.0	84	21	25.0

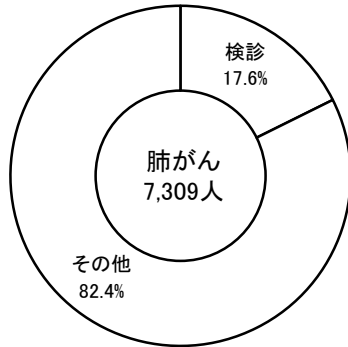
表 8 二次医療圏別にみた検診経由数とその割合（胃・大腸・肺・乳房・子宮頸部） 2022 年



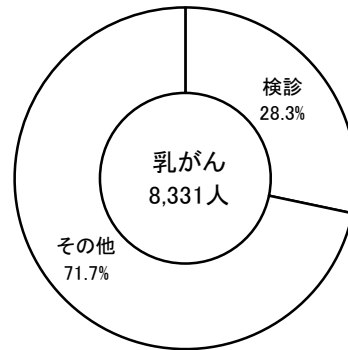
胃		人
検診	1,282	
その他	5,588	
合計	6,870	



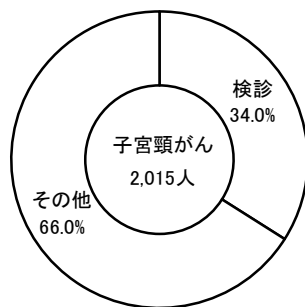
大腸		人
検診	2,884	
その他	10,119	
合計	13,003	



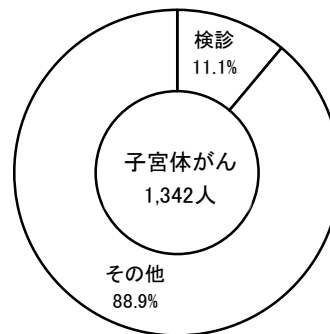
肺		人
検診	1,288	
その他	6,021	
合計	7,309	



乳房		人
検診	2,355	
その他	5,976	
合計	8,331	



子宮頸		人
検診	685	
その他	1,330	
合計	2,015	



子宮体部		人
検診	149	
その他	1,193	
合計	1,342	

図17 検診で発見されたがん -届出り患者数- 2022年

6. 診断・治療の状況（部位・地域・病院規模）

（1）診断方法

地域がん登録（悪性新生物登録事業）では、がんの診断方法（X線、内視鏡、細胞診、組織診、病理解剖、画像診断）について調査している。

死亡票のみの者の診断方法や治療方法は明確でない場合が多いため、届出患者 69,562 人を対象として調査した。

主要部位別および地域別の診断方法について集計したものが（付表 12）である。組織診でがんと確かめられた患者は、届出患者のうち 91.8%であった。次いで画像診断、細胞診の割合が高かった。剖検（病理解剖）による確認は 0.3%であった。組織診の割合の低いものは肝・肝内胆管 38.0%、膵 68.3%である。剖検（病理解剖）の割合が高いものは、胆のう・胆管が 1.1%、白血病が 0.8%であった。

組織診では皮膚が 100.3%、骨が 100.0%、乳房 99.7%と高い割合を示している。

市区町村ごとの組織診・細胞診の件数は（付表 11）にのせた。

（2）治療の状況

届出された患者がどのような治療を受けたのか表 9 に主要部位別・二次保健医療圏別に示した。治療内容は、手術療法、放射線療法、化学療法とこれらの併用療法、体腔鏡的切除、内視鏡的切除、対症療法に分類した。

手術のみ受けた患者は、届出された患者の 26.4%であった。これを主要部位でみると、皮膚 87.9%、乳房 83.7%、甲状腺 77.5%が高い割合を示している。放射線療法は喉頭 57.3%、脳 53.5%が高く、化学療法で最も高いのは白血病 73.6%である。

併用療法では、手術療法と化学療法の併用療法が届出された患者の 5.6%を占めている。主要部位で最も割合が高いのは卵巣 44.2%であった。

また、二次保健医療圏別に観察すると、手術を受けた患者の割合は横須賀・三浦、湘南東部がともに 27.1%と最も高かった。

表9 治療の状況(届出患者数に対する割合)(%)

1.主要部位別

2022年

部 位	ICD-10	届出患者数	手術療法計(S)	放射線治療(R)	化学療法(C)	手術+放射線療法(S+R)のみ	手術+化学療法(S+C)のみ	放射線+化学療法(R+C)のみ	手術+放射線+化学療法(S+R+C)のみ	体腔鏡的切除	内視鏡的切除	対症療法	治療不明
全部位	C00-C96-D06	69,562	26.4	12.8	26.3	3.4	5.6	3.1	1.6	20.3	15.8	13.7	-
口腔・咽頭	C00-C14	1,589	40.8	31.6	27.5	3.2	2.2	18.4	3.5	1.4	6.8	15.9	-
食道	C15	1,920	3.5	20.2	31.5	0.1	1.3	14.9	0.1	12.7	35.5	17.1	-
胃	C16	6,870	15.6	0.9	18.0	0.0	6.1	0.3	0.0	18.3	40.0	12.0	-
結腸	C18	8,893	13.2	0.3	19.2	0.0	4.3	0.1	0.0	39.4	36.9	8.5	-
直腸	C19-C20	4,110	8.0	5.6	26.8	0.1	2.8	4.5	0.2	44.4	32.2	10.4	0.0
肝・肝内胆管	C22	1,667	13.4	7.9	27.7	0.1	2.0	1.0	0.1	8.0	0.1	43.4	-
胆のう・胆管	C23-C24	1,143	31.8	2.1	33.7	0.4	13.7	0.6	0.4	7.4	0.5	40.7	-
膵	C25	2,774	20.0	3.7	50.4	0.0	13.1	2.4	0.4	4.3	0.1	34.3	-
喉頭	C32	307	19.4	57.3	15.3	1.6	1.0	13.4	0.6	2.6	10.5	16.2	-
肺	C33-C34	7,309	4.9	19.0	35.1	0.2	1.1	9.7	0.4	34.2	0.0	18.9	-
骨	C40-C41	52	45.3	28.3	22.6	-	15.1	3.8	-	3.8	-	15.1	-
皮膚	C43-C44	2,015	87.9	1.9	1.9	0.8	1.0	0.5	0.2	0.1	0.1	5.8	-
乳房	C50	8,331	83.7	34.9	28.5	24.5	14.0	0.4	9.4	0.1	0.1	2.5	-
子宮	C53-C55-D06	3,362	54.8	10.1	21.8	1.2	9.8	5.0	1.4	24.7	1.0	7.1	-
卵巣	C56	945	75.2	0.5	52.8	0.2	44.2	-	0.2	13.0	-	7.4	-
前立腺	C61	6,950	1.3	24.6	2.0	0.1	0.1	0.3	-	25.8	0.8	7.6	-
腎	C64	1,226	9.9	1.6	10.5	0.1	1.5	0.9	0.2	64.1	0.1	9.3	-
膀胱	C67	2,870	3.4	3.2	48.7	0.0	1.5	1.5	0.1	6.0	88.3	24.6	-
脳	C71	299	66.2	53.5	52.5	3.7	4.4	6.7	41.5	-	0.7	18.7	-
甲状腺	C73	869	77.5	8.2	2.5	6.9	1.3	0.2	0.5	0.6	0.6	9.8	-
白血病	C91-C95	834	0.5	7.5	73.6	0.1	0.2	7.2	-	-	-	27.2	-

2.二次保健医療圏別

地 域	届出患者数	手術療法計(S)	放射線治療(R)	化学療法(C)	手術+放射線療法(S+R)のみ	手術+化学療法(S+C)のみ	放射線+化学療法(R+C)のみ	手術+放射線+化学療法(S+R+C)のみ	体腔鏡的切除	内視鏡的切除	対症療法	治療不明
神奈川県	69,562	26.4	12.8	26.3	3.4	5.6	3.1	1.6	20.3	15.8	13.7	0.0
横浜市	28,460	26.5	13.6	26.0	3.6	5.4	3.2	1.7	20.2	16.3	14.3	-
横浜北部	10,861	26.9	14.2	26.1	4.5	5.5	3.1	1.8	20.5	16.2	16.9	-
横浜西部	8,573	26.0	13.9	25.7	3.1	5.6	3.5	1.7	20.6	15.2	11.5	-
横浜南部	9,026	26.4	12.6	26.2	3.2	5.2	3.0	1.6	19.5	17.4	13.9	-
川崎市	9,489	25.4	11.9	27.6	3.6	5.4	3.0	1.8	21.0	15.8	14.4	-
川崎北部	4,838	25.5	12.0	28.3	3.6	5.6	2.7	2.3	21.5	15.2	13.4	-
川崎南部	4,651	25.3	11.9	26.9	3.5	5.2	3.3	1.3	20.4	16.4	15.5	-
横須賀・三浦	6,411	27.1	13.2	26.4	3.4	5.8	3.0	1.5	19.3	14.7	13.5	-
湘南東部	5,646	27.1	13.1	25.9	2.6	6.3	3.3	1.3	18.9	15.3	15.8	0.1
湘南西部	4,834	25.3	10.3	29.0	3.2	5.2	3.0	0.9	21.2	14.0	14.9	0.0
県央	6,570	26.2	11.9	27.1	2.9	5.8	3.3	1.6	19.8	15.1	11.3	0.0
相模原	5,389	25.0	13.8	26.5	3.4	5.8	3.6	2.0	20.0	17.1	10.1	-
県西	2,763	25.4	10.9	24.8	2.2	5.5	2.3	1.1	19.1	13.1	14.5	-

(3) 受療医療機関

届出り患者の受療した病院・診療所について診断、治療、その後の転帰までも含めた延べ受診者数を医療機関の規模別にまとめた(表10)。

149床以下を小規模病院、150-499床を中規模病院、500床以上を大規模病院とした。専門病院はがん専門の病院である。

図18に全部位、胃、肺、結腸、乳房、子宮の病院規模別受療状況を示した。

全国がん登録開始に伴い、県外在住者の県内医療機関受療が届出されるようになった為、付表13について、県内在住者、県外在住者を分け集計した。

付表13-1に県内在住者の主要部位と二次保健医療圏別・病院規模別の受療状況を示した。

大学病院では甲状腺 63.9%、骨 58.1%、口腔・咽頭 54.2%の受療割合が高く、がん専門病院では骨 28.4%、膵 12.2%の受療割合が高い。大規模病院では白血病 33.3%、皮膚 32.9%の受療割合が高い。

地域別にみると大規模病院は横須賀・三浦、大学病院は横浜南部、がん専門病院は横浜西部の受療割合が高い。患者の受療には、患者の居住地域や医療機関の設置状況、交通との関係があるとみられる。

付表13-2に県外在住者について主要部位別・病院規模別の受療の状況を示した。

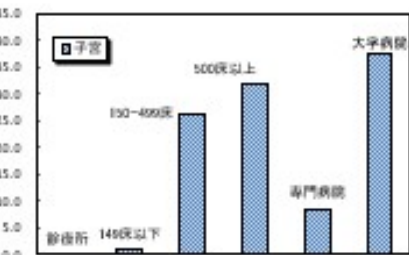
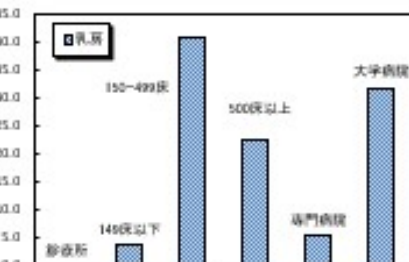
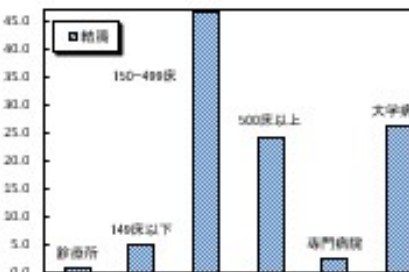
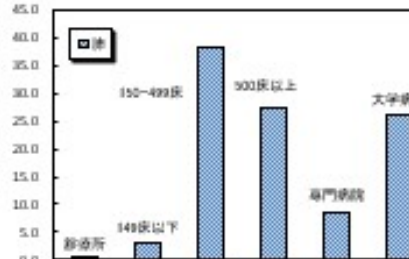
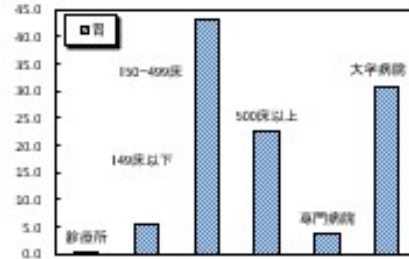
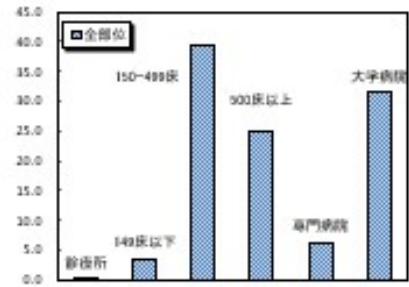
大学病院では喉頭、皮膚、脳の受療割合が高く、大規模病院では卵巣、膀胱の割合が高くなっている。

表10 病院規模別受診割合の比較 (%)

病院規模	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
診療所	1.3	1.0	0.9	1.0	0.8	0.1
149床以下	4.2	3.8	3.6	3.7	3.5	3.5
150-499床	38.1	39.1	39.5	39.6	39.5	39.4
500床以上	25.7	25.9	24.6	24.1	24.7	24.9
専門病院	5.5	5.3	5.7	6.0	5.6	6.2
大学病院	30.6	30.3	31.8	31.5	31.8	31.6
県外	-	-	-	-	-	-

平成28年以降は、全国がん登録開始に伴い県外在住者の県内医療機関受療の届出を別集計とした

図18 病院規模別・受療状況 (%) 2022年



7. 5年相対生存率

がん統計では患者の予後を示す指標として、届出し患者の実測生存率（累積生存率）及び相対生存率を算出している。相対生存率は実測生存率を期待生存率で割ったものである。生存率の算定にあたっては、登録患者についての生死の確認をおこなっていく必要がある。

平成18年度まで人口動態調査死亡票の照合による死亡の確認のみであったが、平成19年度より神奈川県全市区町村へ住民票照会を実施し、生存確認や居住確認の追跡調査が実施できている（付表15）。追跡調査は、平成24年から住民基本台帳ネットワークシステムとの照合が使用できるようになり、生存確認調査の省力化がはかれるようになった。

主要部位の5年相対生存率について平成26年、27年、28年、29年、30年に診断され、医療機関から届出された患者について表11にのせた。平成26年から30年までを比べてみると、男女ともに胃など生存率が少しずつ高くなっている部位がある一方、最も生存率が低い部位である膵は、現在も他の部位と比較して特に低い生存率を示している。

平成30年診断患者の5年相対生存率をみると、高い部位は男性では前立腺97.9%、皮膚93.2%、甲状腺90.4%、女性では甲状腺96.4%、皮膚95.8%、乳房92.5%である。逆に低い部位は男性、女性ともに膵、脳、胆のう・胆管である。

表11 部位別5年相対生存率（%）

		ICD-10	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
性別	全部位	C00-C96	65.6	67.8	67.7	67.9	69.0
男	口腔・咽頭	C00-C14	57.0	63.1	65.0	61.1	62.8
	食道	C15	44.8	47.0	49.5	51.8	48.8
	胃	C16	64.9	67.9	67.8	68.8	69.3
	結腸	C18	80.8	81.7	82.3	80.4	81.2
	直腸	C19-C20	76.9	76.3	78.2	78.4	77.4
	肝・肝内胆管	C22	37.0	40.2	36.4	34.2	35.0
	胆のう・胆管	C23-C24	29.3	30.0	25.5	26.1	33.9
	膵	C25	11.9	13.2	12.4	14.6	16.2
	喉頭	C32	83.1	83.3	81.0	87.3	83.5
	肺	C33-C34	30.2	34.5	33.1	35.7	38.3
	骨	C40-C41	83.1	53.1	65.8	46.0	48.2
	皮膚	C43-C44	95.2	97.3	96.2	95.0	93.2
	前立腺	C61	96.8	100.1	96.2	97.3	97.9
	腎	C64	82.6	82.4	79.4	80.1	86.2
	膀胱	C67	83.4	86.1	84.7	86.2	86.3
	脳	C71	27.3	33.3	30.2	29.2	33.3
	甲状腺	C73	93.4	93.9	93.1	92.0	90.4
白血病	C91-C95	44.3	52.5	50.8	51.2	49.7	
性別	全部位	C00-C96	72.3	73.5	73.4	72.7	73.8
女	口腔・咽頭	C00-C14	71.0	69.8	69.6	69.3	65.7
	食道	C15	46.1	54.8	53.1	55.0	55.3
	胃	C16	66.8	66.4	67.9	68.2	68.0
	結腸	C18	77.8	79.0	78.7	77.9	78.9
	直腸	C19-C20	78.4	78.5	78.5	79.1	78.8
	肝・肝内胆管	C22	34.6	37.0	34.1	35.4	36.6
	胆のう・胆管	C23-C24	21.9	28.9	26.9	21.7	27.8
	膵	C25	11.3	15.2	13.9	12.4	15.2
	喉頭	C32	86.0	74.7	81.2	82.5	66.1
	肺	C33-C34	50.0	52.4	51.6	49.7	52.5
	骨	C40-C41	66.8	84.6	57.7	62.9	90.4
	皮膚	C43-C44	95.5	98.5	95.3	94.1	95.8
	乳房	C50	91.2	92.4	91.5	91.9	92.5
	子宮	C53-C55	78.7	78.0	78.4	79.5	78.3
	卵巣	C56	64.8	60.3	68.5	68.4	70.1
	腎	C64	76.2	77.2	78.7	79.1	79.6
	膀胱	C67	81.6	79.9	73.4	75.8	80.2
脳	C71	31.6	38.2	37.4	35.4	25.8	
甲状腺	C73	95.0	95.1	93.3	93.0	96.4	
白血病	C91-C95	53.8	57.3	50.3	53.7	56.9	

8. 2022 年のがんり患数と死亡数の比較

がん統計やがんの予防、医療活動の評価のためには、地域がん登録に基づきり患統計とともに、人口動態統計に基づく死亡統計（付表 16、17、18）も用い、常に両者を比較しながら検討する必要がある。

特に、り患統計では、その地域の真のり患数をどの程度反映しているのかを吟味すべきである。現在この指標として、（当該年のり患数）÷（当該年の死亡数）（I/D比）を用いている。

（1）全部位のがん

本県の 2022 年のがんり患数は、同年の死亡数の 2.9 倍である。この値が 1.5 以下の場合、届出もれのあることが推定されるが、本県では、昭和 62 年より 1.5 以上を維持している。

（2）部位別の比較

主要部位別にみると皮膚(17.9)、前立腺(7.6)、子宮(7.5)が高い値を示し、膵および胆のう・胆管（いずれも 1.2）、肝・肝内胆管(1.4)が低い値である。

表 1 2 主要部位別死亡数に対するり患数の比

2022年

部 位	ICD-10	死亡数(D)	り患数(I)	I/D
全部位	C00-C96	24,850	72,801	2.9
口腔・咽頭	C00-C14	647	1,643	2.5
食道	C15	812	2,002	2.5
胃	C16	2,449	7,168	2.9
結腸	C18	2,411	9,237	3.8
直腸	C19-C20	1,003	4,205	4.2
肝・肝内胆管	C22	1,359	1,891	1.4
胆のう・胆管	C23-C24	1,051	1,271	1.2
膵	C25	2,565	3,061	1.2
喉頭	C32	50	311	6.2
肺	C33-C34	4,815	7,907	1.6
骨	C40-C41	29	60	2.1
皮膚	C43-C44	113	2,025	17.9
乳房	C50	1,227	8,517	6.9
子宮	C53-C55	458	3,416	7.5
卵巣	C56	371	991	2.7
前立腺	C61	939	7,092	7.6
腎	C64	319	1,294	4.1
膀胱	C67	632	2,950	4.7
脳	C71	199	357	1.8
甲状腺	C73	125	886	7.1
白血病	C91-C95	602	886	1.5